

山形銀行  
中間期ディスクロージャー誌

2015

YAMAGATA BANK DISCLOSURE 2015

*Yamagata Bank*

2015



## ■ プロフィール (平成27年9月末現在)

商 号 株式会社 山形銀行 (The Yamagata Bank, Ltd.)  
本店所在地 山形市七日町三丁目1番2号  
電 話 023 (623) 1221  
創立年月日 明治29年4月14日  
資 本 金 120億円  
店 舗 数 80カ店 (県内70カ店・県外10カ店)  
従 業 員 数 1,337名  
預 金 残 高 21,335億円 (譲渡性預金含む)  
貸 出 金 残 高 15,378億円  
自己資本比率 (バーゼルⅢ国内基準) 単体12.34%、連結12.89%  
格 付 け A<sup>+</sup> (株式会社 日本格付研究所)

CONTENTS .....	1
ごあいさつ .....	2

## 〈やまぎん〉の「いま」

健全経営の指標 .....	3
安定経営の指標 .....	4
業績ハイライト .....	5
中小企業の経営の改善および 地域の活性化のための取り組みの状況 .....	6

## 資料編

経営環境と業績 .....	8
連結情報 .....	10
中間連結財務諸表 .....	11
セグメント情報 .....	18
中間財務諸表 .....	19
損益の状況 .....	23
営業の状況 .....	25
資本・株式の状況 .....	37
自己資本充実の状況 .....	38
INDEX .....	54



## ■ ごあいさつ

平素より山形銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、当中間期におけるわが国経済は、輸出や企業の生産活動が伸び悩んだものの、企業収益や所得環境が改善するなど、緩やかな回復基調が続きました。県内経済につきましても、全国と同様に企業の生産活動など一部で伸び悩んだものの、総じてみれば緩やかな持ち直しの動きとなりました。

一方、金融界においては、有力地銀同士の経営統合発表が相次ぐなど、金融再編の動きが着実に進展しており、競争環境が一層激化することが予想されます。

こうしたなか、当行は平成27年4月より第18次長期経営計画「<やまぎん>イノベーション・プランⅢ」をスタートさせました。本長計では長期ビジョンに『山形の発展に「責任」を持ち圧倒的なNo.1になる』ことを掲げ、「地方創生」（地域の成長）と「収益の拡大」（銀行の成長）を実現する内容としております。地方創生を主体的にリードしていくとともに、自らの経営基盤を強化・拡大することにより、地域に根差す金融機関として、地域の発展に取り組んでまいりたいと考えております。

当行はおかげさまで本年4月に創立120周年を迎えます。120周年という大きな節目の年を迎えるにあたり、あらためて地域のみなさまに感謝するとともに、よりご満足をいただける総合金融サービスの提供に努めてまいります。

みなさま方には、引き続き温かいご支援と変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

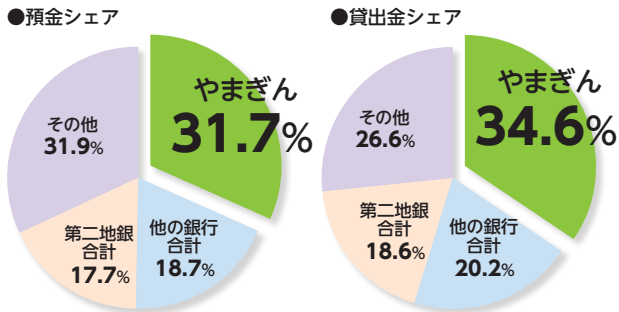
平成28年1月  
取締役頭取

長谷川吉茂

# 〈やまぎん〉の「いま」

## 健全経営の指標

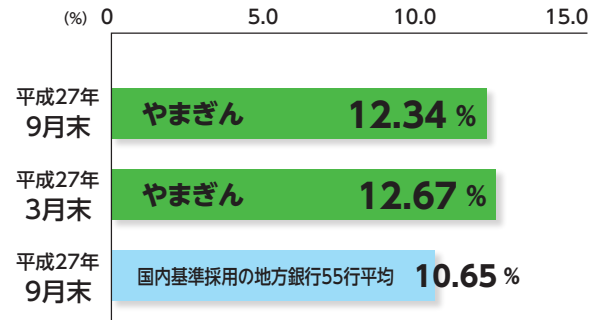
### 山形県内シェア



(注) 平成27年9月末、ゆうちょ銀行、政策金融機関を除く

〈やまぎん〉は県内トップシェアを維持しております。

### 自己資本比率



〈やまぎん〉は12.34%と高水準で安定した比率を維持しております。

#### 用語解説 【自己資本比率】

銀行の健全性を表す代表的な指標であり、国内基準では自己資本比率4%以上を維持することが求められております。

### 格付け

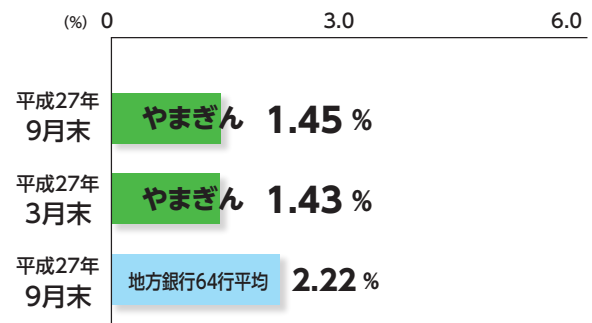


〈やまぎん〉は、「A<sup>+</sup>」の高い評価を受けております。

#### 用語解説 【格付け】

企業などが発行する債券等の元金支払いの安全度を公正な第三者機関が客観的に評価し、簡単な記号で表したものです。銀行の場合、預金の元本と利息が確実に支払われるかどうかを表しており、銀行の信用度や安全性を示す代表的な指標としても使われております。

### リスク管理債権比率



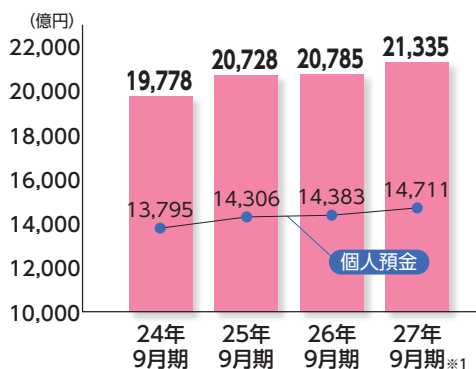
〈やまぎん〉は1.45%と良好な水準となっております。

#### 用語解説 【リスク管理債権比率】

総貸出金に占める銀行法で定められた不良債権「破綻先債権」、「延滞債権」、「3カ月以上延滞債権」、「貸出条件緩和債権」の割合を表しております。

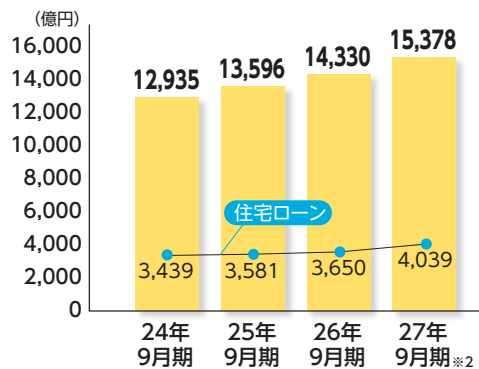
## 安定経営の指標

### 総預金（末残）



総預金（預金ならびに譲渡性預金）については、お客さまの多様なニーズにお応えする商品の提供に努めてまいりました結果、中間期末残高は前年同期比550億円増加の2兆1,335億円となりました。

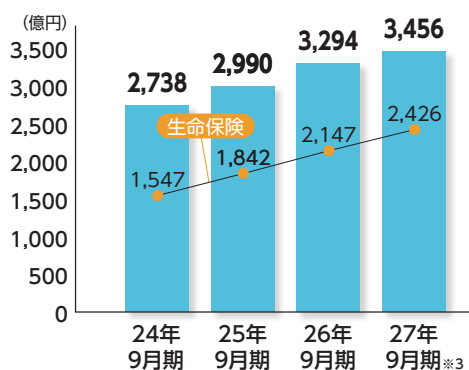
### 貸出金（末残）



貸出金は、住宅ローンを中心に個人向け貸出の増強に注力したほか、企業や地方公共団体の資金需要に積極的にお応えした結果、中間期末残高は前年同期比1,048億円増加の1兆5,378億円となりました。

また、住宅ローンの中間期末残高は前年同期比388億円増加しました。

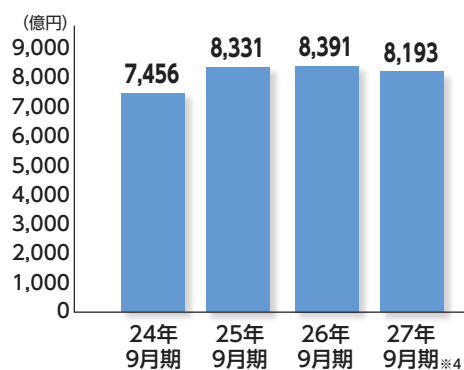
### 預かり金融資産（末残）



預かり金融資産については、生命保険の販売が好調に推移したことから全体では前年同期比162億円増加しました。

※1 ※2 ※3 ※4 計数は単位未満を切り捨てて表示しております。

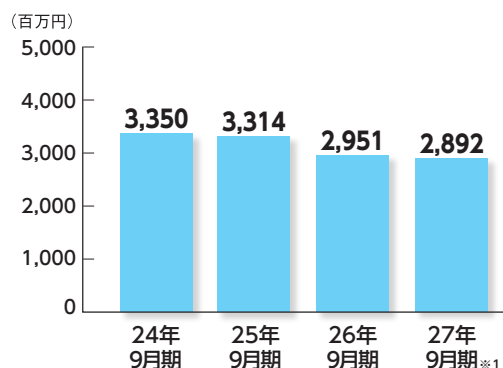
### 有価証券（末残）



有価証券は、国内外の投資環境や市場動向に留意しながら、国債から他の資産へのポートフォリオ・リバランスを進めた結果、前年同期比198億円減少しました。

# 業績ハイライト

## コア業務純益

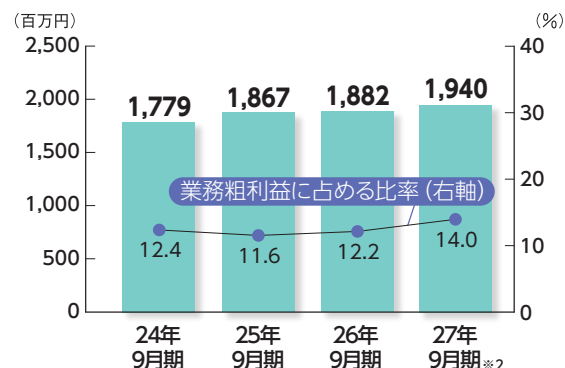


コア業務純益は、国内部門の利鞘縮小が継続するなか、預貸金の業容拡大や外貨建運用の強化により資金利益は微減にとどまったほか、法人サービスフィーを中心に役務取引等利益が増加したことなどから、58百万円の減益とほぼ前年同期並みの水準を確保しました。

### 用語解説 【コア業務純益】

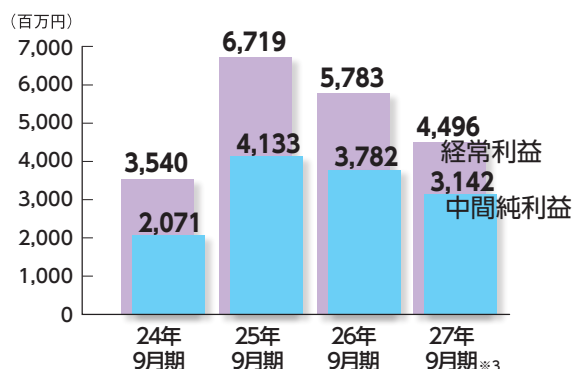
預金、貸出金、有価証券など銀行の本業による利益である「業務純益」から、特殊要因で大きく変動する「債券関係損益」と「一般貸倒引当金繰入額」を除いたもので、銀行本来の収益力を表す指標です。

## 役務取引等利益



役務取引等利益は、法人向けサービスの提供による手数料収入が増加したことなどから、前年同期比58百万円増加し、19億40百万円となりました。また、役務取引等利益が業務粗利益に占める比率は、14.0%となりました。

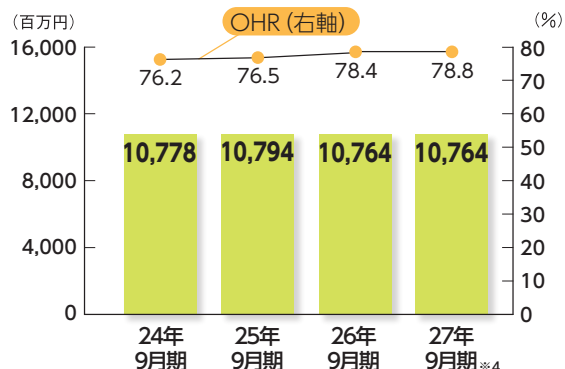
## 経常利益・中間純利益



経常利益は、有価証券関係損益は前年同期水準を確保したものの、貸倒引当金の引当方法見直し等により与信関係費用が増加したことなどから、前年同期比12億87百万円減少し、44億96百万円となりました。また、中間純利益は、同6億40百万円減少し、31億42百万円となりました。

※1 ※2 ※3 ※4 計数は単位未満を切り捨てて表示しております。

## 経費・OHR (債券関係損益除き)



経費は、必要な投資を行う一方で全般的な経費削減に取り組みました結果、前年同期水準の107億64百万円となりました。また、OHR (債券関係損益除き) は、コア業務粗利益の減少を主因に、前年同期比0.4ポイント上昇し、78.8%となりました。

### 用語解説 【OHR】

「コア業務粗利益」に対する「経費」の割合を示しており、経営効率を図る代表的指標です。

## ●地域密着型金融の取り組み（概要）

- ◆地域密着型金融は、地域経済を金融面から活性化させるための取り組みであり、地域との連携・協力体制により、お客さまと地域経済、そして地域金融機関がともに発展することを目指しております。
- ◆当行は、第18次長期経営計画においても「地方創生(地域の成長)」を柱の一つに掲げ、重点課題の一つである「地域価値創造」に取り組んでまいります。

## ●お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮

	創業期・新事業	成長期・拡大期・成熟期	再生期・発展期
	創業・新事業開拓の支援	成長段階における支援	経営改善・事業再生等の支援
資金調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業資金</li> <li>企業育成ファンド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転、設備資金</li> <li>私募債、シンジケートローン、動産・売掛金担保融資（ABL）等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転、設備資金</li> <li>再生ファンド、DES・DDS等</li> <li>動産担保融資（ABL）等</li> </ul>
経営支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手経営者の育成支援</li> <li>ビジネスマッチング、商談会の開催</li> <li>公的助成制度の紹介</li> <li>技術評価、製品化・商品化支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマッチング、商談会の開催</li> <li>人材育成支援</li> <li>海外進出支援</li> <li>産学官金連携による支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式公開</li> <li>年金制度</li> <li>事業承継</li> <li>M&amp;A</li> <li>相続対策</li> </ul>
外部専門家・外部機関等との連携	税理士・公認会計士・中小企業診断士・商工会・商工会議所・信用保証協会・コンサルティング会社等		地域経済活性化支援機構 中小企業再生支援協議会等
合理化・効率化支援	でんさい・インターネットバンキング・地方税納入サービス・代金回収サービス・コンビニ収納サービス等		

### 取り組み実績（平成27年4月～平成27年9月）

取り組み分野	項目	実績
創業・新事業開拓の支援	開業関連融資	18件／ 156百万円
ビジネスマッチング・商談会	提携先ビジネスマッチング成約実績	39件
多様な資金調達手段の提供に向けた取り組み	動産・売掛金担保融資（ABL）	15件／ 1,300百万円
	私募債	11件／ 710百万円
成長分野への取り組み	環境関連融資（未残）	159件／ 16,519百万円
	若手農業者の会	会員数 318名
	アグリビジネスカレッジ	1回開催
産学官金連携	相談件数（累計）	136件



## ●経営改善・事業再生支援

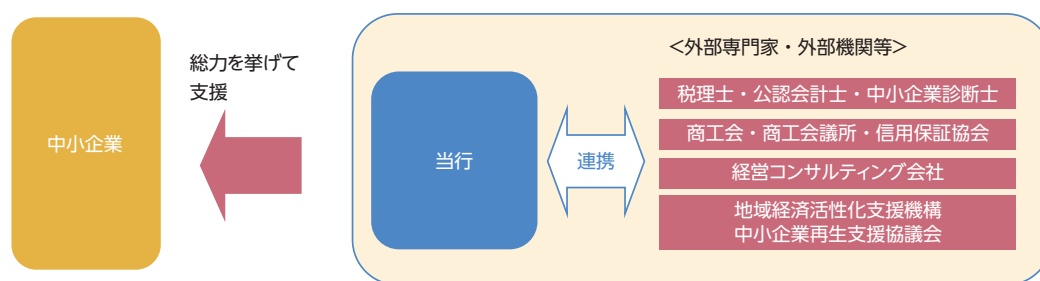
業績が低迷しているお取引先企業に対し、営業店と融資部企業支援室が連携し、経営改善計画の策定や実行を支援しております。また、外部専門家や外部機関等と連携し、経営改善や事業再生支援に取り組んでおります。

### 具体的事例：老舗企業A社に対する再生支援協議会を活用した不採算部門撤退・業種転換支援

取引先A社は、卸売、小売、不動産賃貸を行う老舗企業で、景気の低迷などにより、業績が悪化し、債務超過となっております。

当行は、メイン行としてA社を経営改善支援先とし、外部専門家等と連携しながら、再生支援の方向性を協議してまいりました。A社は卸部門が赤字の一方、不動産賃貸部門は黒字の構造であったため、卸部門撤退を含めた経営改善支援計画を策定いたしました。その計画は、3年目で営業黒字転換するなど、着実に改善する内容となっております。

当行でも毎月の進捗状況を確認しながら、必要設備資金について支援するなど、業績向上や改善計画達成に向けたサポートを行っております。



#### ■経営改善の取組状況（平成27年4月～平成27年9月）

正常先を除く期初債務者数A	1,845先
うち経営改善支援取組先 a	597先
うち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	22先
うち再生計画を策定した先数 c	524先
経営改善支援取組率 (a/A)	32.4%
ランクアップ率 (b/a)	3.7%
再生計画策定率 (c/a)	87.8%

#### ■企業支援室が支援する82先に対する外部機関等の活用状況（平成27年4月～平成27年9月）

中小企業再生支援協議会、認定支援機関	40先
弁護士	4先
公認会計士、税理士	7先
経営コンサルタント（中小企業診断士ほか）	45先
山形県信用保証協会主催 経営サポート会議	5先

## ●事業承継支援

お客様の企業分析により課題の抽出を行い、その解決策（自社株移転スキーム・持株会社設立・相続対策等のプランニング等）をご提案するとともに、各種専門家と連携しながら事業承継をサポートしてまいります。

#### ■取り組み実績（平成27年4月～平成27年9月）

相談件数(本部面談件数)	101件
--------------	------

## 〈経営環境〉

### 〔国内経済〕

当中間期におけるわが国経済は、輸出や企業の生産活動などが伸び悩んだものの、企業収益や所得環境が改善するなど、総じてみれば緩やかな持ち直しの動きとなりました。

中国をはじめとする新興国の景気減速によって、輸出に足踏み感が広がり、企業の生産活動はおおむね横ばいの動きとなりました。また、公共投資は頭打ち感が強まり、やや弱含みとなりました。一方、住宅投資は、消費税率引き上げ後の反動減が一巡したことに加えて、不動産投資の活発化により貸家や分譲住宅の建設需要が増加し、前年を上回る水準で推移しました。個人消費は、自動車販売など一部に弱い動きがみられましたが、雇用・所得環境の改善を背景に、全体では緩やかな持ち直しの動きが続きました。また、原油安や円安などによる好影響もあって企業収益が回復し、設備投資はおおむね改善の動きとなりました。

金融面をみますと、日銀の量的・質的緩和政策が継続されるなか、短期金利は0.1%を下回る水準で推移しました。一方、10年物国債利回りは、年度当初は上昇傾向で推移し、6月に一時0.5%台となりましたが、その後は低下に転じ、おおむね0.3%台での推移となりました。

## 〈業績〉

以上のような経済金融環境のもと、当行は、お取引先の皆さまのご支援のもと、役職員一体となって一層の経営体質強化と業績向上努力を継続し、その結果、当中間期は次のような業績をおさめることができました。

### 〔連結決算の状況〕

預金ならびに譲渡性預金については、当中間連結会計期間中127億円減少し、当中間連結会計期間末残高は2兆1,267億円となりました。貸出金については、当中間連結会計期間中584億円増加し、当中間連結会計期間末残高は1兆5,287億円となりました。有価証券については、当中間連結会計期間中22億円減少し、当中間連結会計期間末残高は8,194億円となりました。

損益状況については、経常利益は、前年同期比12億86百万円減益の49億96百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同7億62百万円減益の31億74百万円となりました。

### 〔キャッシュ・フローの状況〕

連結ベースの現金および現金同等物の当中間連結会計期間末における残高は、当中間連結会計期間中348億円減少し、418億円となりました。

### 〔当行の業績〕

#### ○預金等

預金ならびに譲渡性預金については、季節的要因による公金預金の減少を主因に、当中間期中130億円減少

した。日経平均株価は、4月下旬に15年ぶりに20,000円台を回復し、その後も底堅く推移しましたが、中国の景気減速懸念などにより8月後半から急落し、9月後半には一時17,000円を割り込む水準まで下落するなど、調整色を残したまま中間期末を迎えました。また、円相場は、1米ドル=124円近辺で推移した後、8月の株価急落に伴うリスク回避姿勢の強まりから円高が進み、中間期末にかけて120円前後での推移となりました。

### 〔県内経済〕

当行の主要営業基盤である県内経済は、全国と同様に企業の生産活動など一部で伸び悩んだものの、総じてみれば緩やかな持ち直しの動きとなりました。

企業の生産活動は、電子部品・デバイスをはじめとする主要業種の増勢が鈍化し、おおむね横ばいでの推移となりました。こうしたなか、設備投資は増加基調が一服しやや伸び悩みとなったほか、公共投資は、前年を下回る水準で推移しました。一方、住宅投資は、全国と同様に消費税率引き上げによる影響一巡などから増加傾向が強まり、個人消費も、所得環境の改善をうけて緩慢ながら持ち直しの動きとなりました。この間、雇用情勢は、人手不足をうけて求人増が続いていることもあって、緩やかな改善の動きが続きました。

し、中間期末残高は2兆1,335億円となりました。一方、預かり金融資産については、生命保険が当中間期中131億円と順調に増加したことを主因に、全体では当中間期中58億円増加し、中間期末残高は3,456億円となりました。

#### ○貸出金

貸出金については、当中間期中585億円増加し、中間期末残高は1兆5,378億円となりました。住宅ローンを中心に個人向け貸出の増強に注力したほか、地元企業や地方公共団体の資金需要に積極的にお応えいたしました。

#### ○有価証券

有価証券については、国内外の投資環境や市場動向に留意しながら、国債から他の資産へのポートフォリオ・リバランスを進めた結果、当中間期中22億円減少し、中間期末残高は8,193億円となりました。

#### ○損益の状況

損益については、経常収益は、国債等債券売却益などの「その他業務収益」が減少したほか、前中間期に計上した貸倒引当金戻入益が減少したことを主な要因として、前年同期比1億52百万円減収の193億29百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額および国債等債券売却損の増加を主因に同11億34百万円増加し、148億32百万円となりました。この結果、経常利益は同12億87百万円減益の44億96百万円、中間純利益は同6億40百万円減益の31億42百万円となりました。

## 主要な経営指標の推移（連結）

（単位：百万円）

	平成25年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年3月期	平成27年3月期
連結経常収益	24,798	22,614	22,505	45,738	45,970
連結経常利益	7,057	6,283	4,996	11,203	12,719
親会社株主に帰属する中間（当期）純利益	4,128	3,936	3,174	6,331	7,483
連結（中間）包括利益	4,944	7,060	△1,534	8,840	17,327
連結純資産額	138,273	144,923	152,662	141,682	154,694
連結総資産額	2,296,647	2,404,546	2,454,791	2,379,310	2,466,878
連結ベースの1株当たり純資産額（円）	771.85	842.23	885.83	789.89	900.00
連結ベースの1株当たり中間（当期）純利益金額（円）	24.22	23.92	19.42	37.14	45.62
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益金額（円）	—	21.63	17.34	—	41.00
自己資本比率（%）	5.7	5.7	5.9	5.7	6.0
連結自己資本比率（国内基準）（%）	14.11	13.44	12.89	13.92	13.24
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,262	△7,363	△29,785	40,237	△17,336
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,325	21,568	△4,571	△79,459	51,353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△520	6,661	△497	△1,035	6,165
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	24,192	57,377	41,845	36,515	76,698
従業員数（人）	1,419	1,401	1,403	1,395	1,369

- (注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
 2. 平成25年9月期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。  
 3. 平成26年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。  
 4. 自己資本比率は、（（中間）期末純資産の部合計－（中間）期末非支配株主持分）を（中間）期末資産の部の合計で除して算出しております。  
 5. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。なお、平成26年3月期からパーゼルⅢ基準に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。  
 6. 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を平成27年9月期から適用し、「連結中間（当期）純利益」を「親会社株主に帰属する中間（当期）純利益」としております。

## 主要な経営指標の推移（単体）

※預金残高は譲渡性預金を除く（単位：百万円）

	平成25年9月期	平成26年9月期	平成27年9月期	平成26年3月期	平成27年3月期
経常収益	21,676	19,481	19,329	39,319	39,482
業務純益	5,326	4,701	2,593	8,412	8,866
経常利益	6,719	5,783	4,496	10,316	11,607
中間（当期）純利益	4,133	3,782	3,142	6,318	7,280
資本	12,008	12,008	12,008	12,008	12,008
〔発行済株式総数（千株）〕	〔172,000〕	〔170,000〕	〔170,000〕	〔172,000〕	〔170,000〕
純資産額	131,335	136,582	143,235	134,355	145,518
総資産額	2,284,243	2,391,313	2,440,724	2,366,529	2,452,641
預金残高	1,948,235	1,945,072	1,990,609	2,020,104	2,037,551
貸出金残高	1,359,645	1,433,010	1,537,837	1,418,297	1,479,318
有価証券残高	833,164	839,170	819,350	854,127	821,553
1株当たり純資産額（円）	770.41	835.58	876.37	788.18	890.31
1株当たり（中間）配当額（円）	3.00	3.00	3.00	6.00	6.00
1株当たり中間（当期）純利益金額（円）	24.25	22.99	19.22	37.06	44.39
配当性向（%）	12.37	12.96	15.61	16.19	13.52
自己資本比率（%）	5.7	5.7	5.9	5.7	5.9
単体自己資本比率（国内基準）（%）	13.58	12.82	12.34	13.34	12.67
従業員数（人）	1,349	1,325	1,337	1,322	1,299

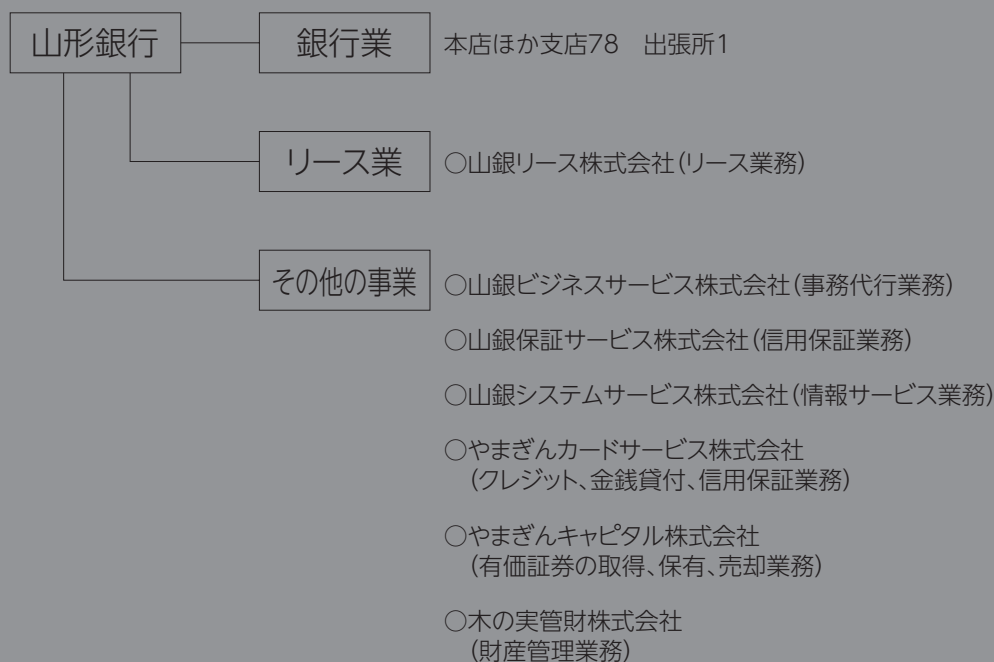
- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
 2. 自己資本比率は、（中間）期末純資産の部合計を（中間）期末資産の部の合計で除して算出しております。  
 3. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。なお、平成26年3月期からパーゼルⅢ基準に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。

## ■ 企業集団等の概況

### [企業集団の事業の内容]

当行グループ（当行及び当行の関係会社）は、当行および連結子会社7社で構成され、銀行業務を中心に保証業務、リース業務、クレジットカード業務など、お客さまへの「総合金融情報サービス」をご提供しております。

(平成27年9月30日現在)



### 連結子会社の情報

(平成27年9月30日現在)

名 称	所在地	業務内容	設立年月日	資本金	当行の議決権 所有割合	当行及び子会社等 の議決権所有割合
山銀ビジネスサービス(株)	山形市七日町3-1-2	事務代行業	昭和54年8月11日	10 <sup>百万円</sup>	100.0%	100.0%
山銀保証サービス(株)	山形市十日町2-4-1	信用保証業	昭和49年11月1日	20	5.0	50.0
山銀リース(株)	山形市宮町2-2-27	リース業	昭和51年4月8日	30	5.0	34.8
山銀システムサービス(株)	山形市三日町1-2-47	情報サービス業	平成2年3月14日	20	5.0	60.5
やまぎんカードサービス(株)	山形市十日町2-4-1	クレジット、金銭貸付、信用保証業	平成3年6月21日	30	5.0	55.0
やまぎんキャピタル(株)	山形市七日町3-1-2	有価証券の取得、保有、売却	平成8年4月3日	100	5.0	30.0
木の実管財(株)	山形市十日町2-4-1	財産管理業	昭和36年6月6日	10	91.2	93.7

(注) 当行のグループ企業には、上記の他に「やまがた地域成長ファンド投資事業有限責任組合」「山形創生ファンド投資事業有限責任組合」がありますが、重要性が乏しいことから連結決算上は非連結としております。

# 中間連結財務諸表

当行は、平成26年9月中間連結会計期間及び平成27年9月中間連結会計期間の中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

以下の中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、上記の中間連結財務諸表に基づいて作成しております。

## 中間連結貸借対照表 (資産の部)

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間末	平成27年9月 中間連結会計期間末
現金預け金	60,465	44,937
コールローン及び買入手形	21,510	1,708
買入金銭債権	10,058	9,565
商品有価証券	66	38
有価証券	839,229	819,411
貸出金	1,423,979	1,528,747
外国為替	1,038	1,280
その他資産	20,602	20,498
有形固定資産	13,845	13,657
無形固定資産	1,098	1,313
退職給付に係る資産	674	2,393
繰延税金資産	428	271
支払承諾見返	18,857	17,995
貸倒引当金	△7,308	△7,026
資産の部合計	2,404,546	2,454,791

## (負債の部)

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間末	平成27年9月 中間連結会計期間末
預金	1,943,957	1,989,706
譲渡性預金	127,699	137,051
コールマネー及び売渡手形	50,180	33,509
債券貸借取引受入担保金	30,399	35,971
借入金	49,349	49,939
外国為替	53	95
新株予約権付社債	10,945	11,996
その他負債	17,974	16,465
役員賞与引当金	10	10
退職給付に係る負債	42	45
役員退職慰労引当金	294	256
睡眠預金払戻損失引当金	176	87
偶発損失引当金	193	253
利息返還損失引当金	88	74
繰延税金負債	7,818	7,271
再評価に係る繰延税金負債	1,584	1,399
支払承諾	18,857	17,995
負債の部合計	2,259,622	2,302,128

## (純資産の部)

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間末	平成27年9月 中間連結会計期間末
資本金	12,008	12,008
資本剰余金	4,934	4,934
利益剰余金	103,703	109,544
自己株式	△2,965	△2,973
株主資本合計	117,680	123,513
その他有価証券評価差額金	20,910	21,838
繰延ヘッジ損益	△2,694	△2,752
土地再評価差額金	1,103	1,135
退職給付に係る調整累計額	668	1,047
その他の包括利益累計額合計	19,988	21,269
非支配株主持分	7,255	7,880
純資産の部合計	144,923	152,662
負債及び純資産の部合計	2,404,546	2,454,791

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間	平成27年9月 中間連結会計期間
経常収益	22,614	22,505
資金運用収益	13,189	13,122
(うち貸出金利息)	(9,437)	(9,124)
(うち有価証券利息配当金)	(3,636)	(3,888)
役員取引等収益	3,763	3,853
その他業務収益	4,208	3,068
その他経常収益	1,452	2,460
経常費用	16,331	17,508
資金調達費用	1,381	1,371
(うち預金利息)	(679)	(650)
役員取引等費用	1,148	1,113
その他業務費用	2,141	2,602
営業経費	11,479	11,387
その他経常費用	179	1,033
経常利益	6,283	4,996
特別利益	0	—
固定資産処分益	0	—
特別損失	166	91
固定資産処分損	135	91
減損損失	31	—
税金等調整前中間純利益	6,117	4,905
法人税、住民税及び事業税	1,412	1,783
法人税等調整額	539	△344
法人税等合計	1,952	1,439
中間純利益	4,164	3,466
非支配株主に帰属する中間純利益	228	292
親会社株主に帰属する中間純利益	3,936	3,174

## 中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間	平成27年9月 中間連結会計期間
中間純利益	4,164	3,466
その他の包括利益	2,896	△5,001
その他有価証券評価差額金	2,579	△5,025
繰延ヘッジ損益	△323	93
退職給付に係る調整額	640	△68
中間包括利益	7,060	△1,534
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	6,830	△1,826
非支配株主に係る中間包括利益	229	292



中間連結株主資本等変動計算書

平成26年9月中間連結会計期間

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	12,008	4,939	101,464	△828	117,583
会計方針の変更による累積的影響額			△189		△189
会計方針の変更を反映した当期首残高	12,008	4,939	101,275	△828	117,394
当中間期変動額					
剰余金の配当			△511		△511
親会社株主に帰属する中間純利益			3,936		3,936
自己株式の取得				△3,109	△3,109
自己株式の消却		△5	△967	972	—
土地再評価差額金の取崩			△30		△30
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					
当中間期変動額合計	—	△5	2,427	△2,136	285
当中間期末残高	12,008	4,934	103,703	△2,965	117,680

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	18,333	△2,370	1,073	28	17,063	7,034	141,682
会計方針の変更による累積的影響額							△189
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,333	△2,370	1,073	28	17,063	7,034	141,493
当中間期変動額							
剰余金の配当							△511
親会社株主に帰属する中間純利益							3,936
自己株式の取得							△3,109
自己株式の消却							—
土地再評価差額金の取崩							△30
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	2,577	△323	30	640	2,924	220	3,145
当中間期変動額合計	2,577	△323	30	640	2,924	220	3,430
当中間期末残高	20,910	△2,694	1,103	668	19,988	7,255	144,923

平成27年9月中間連結会計期間

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	12,008	4,934	106,816	△2,972	120,787
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	12,008	4,934	106,816	△2,972	120,787
当中間期変動額					
剰余金の配当			△490		△490
親会社株主に帰属する中間純利益			3,174		3,174
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の消却					
土地再評価差額金の取崩				43	43
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					
当中間期変動額合計	—	—	2,727	△1	2,726
当中間期末残高	12,008	4,934	109,544	△2,973	123,513

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	26,863	△2,845	1,179	1,116	26,314	7,593	154,694
会計方針の変更による累積的影響額							—
会計方針の変更を反映した当期首残高	26,863	△2,845	1,179	1,116	26,314	7,593	154,694
当中間期変動額							
剰余金の配当							△490
親会社株主に帰属する中間純利益							3,174
自己株式の取得							△1
自己株式の消却							—
土地再評価差額金の取崩							43
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	△5,025	93	△43	△68	△5,044	287	△4,757
当中間期変動額合計	△5,025	93	△43	△68	△5,044	287	△2,031
当中間期末残高	21,838	△2,752	1,135	1,047	21,269	7,880	152,662

# 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	平成26年9月 中間連結会計期間	平成27年9月 中間連結会計期間
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	6,117	4,905
減価償却費	556	772
減損損失	31	—
貸倒引当金の増減(△)	△737	691
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△10	△11
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△624	△589
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1	2
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△11	△58
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	18	9
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	△32	39
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	△130	△5
資金運用収益	△13,189	△13,122
資金調達費用	1,381	1,371
有価証券関係損益(△)	△2,095	△2,110
為替差損益(△は益)	△32	20
固定資産処分損益(△は益)	135	91
貸出金の純増(△)減	△14,442	△58,521
預金の純増減(△)	△75,834	△46,633
譲渡性預金の純増減(△)	27,976	33,939
借入金(劣後特約借入金を除く)の純増減(△)	△239	3,058
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△2,095	△16
コールローン等の純増(△)減	△1,892	33,060
コールマネー等の純増減(△)	49,520	△6,442
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	8,164	10,907
商品有価証券の純増(△)減	△8	1
外国為替(資産)の純増(△)減	526	△279
外国為替(負債)の純増減(△)	△4	38
資金運用による収入	13,102	13,095
資金調達による支出	△1,448	△1,373
その他	166	△602
小計	△5,130	△27,757
法人税等の支払額	△2,232	△2,034
法人税等の還付額	0	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,363	△29,785
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△170,587	△110,859
有価証券の売却による収入	148,411	89,563
有価証券の償還による収入	44,663	17,579
有形固定資産の取得による支出	△841	△547
有形固定資産の売却による収入	6	141
無形固定資産の取得による支出	△88	△453
無形固定資産の売却による収入	4	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,568	△4,571
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権付社債の発行による収入	10,292	—
配当金の支払額	△511	△490
非支配株主への配当金の支払額	△9	△5
自己株式の取得による支出	△3,109	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,661	△497
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	20,861	△34,852
現金及び現金同等物の期首残高	36,515	76,698
現金及び現金同等物の中間期末残高	57,377	41,845

## 注記事項(平成27年9月中間連結会計期間)

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社 7社

会社名  
山銀リース株式会社  
山銀保証サービス株式会社  
やまぎんカードサービス株式会社  
やまぎんキャピタル株式会社  
山銀システムサービス株式会社  
山銀ビジネスサービス株式会社  
木の実管財株式会社

#### (2) 非連結子会社

会社名  
やまがた地域成長ファンド投資事業有限責任組合  
山形創生ファンド投資事業有限責任組合

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

#### (2) 持分法適用の関連会社

該当ありません。

#### (3) 持分法非適用の非連結子会社

会社名  
やまがた地域成長ファンド投資事業有限責任組合  
山形創生ファンド投資事業有限責任組合

持分法非適用の非連結子会社は、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。

#### (4) 持分法非適用の関連会社

該当ありません。

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

#### (1) 連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

9月末日 7社

### 4. 開示対象特別目的会社に関する事項

該当事項はありません。

### 5. 会計方針に関する事項

#### (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

#### (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

#### (4) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産(リース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定額法により償却しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物： 2～50年

その他： 2～15年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

##### ② 無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当行の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法は、従来、定率法を採用していましたが、当中間連結会計期間より定額法へ変更しております。

# 中間連結財務諸表

当行は、当期よりスタートした長期経営計画「やまぎん・イノベーション・プランⅢ」において、ATMなどへの積極的な投資とともに、営業用店舗の建替・改修工事も予定しております。これらの案件に対する投資検討開始を契機として、有形固定資産の減価償却方法を検討した結果、当行の営業店舗及び事務機器等は長期安定的に使用され、その使用価値は存続期間を通じて概ね一定であるため、使用実態にあわせて、使用可能期間である耐用年数にわたり均等に費用配分を行う定額法が経営の実態をより適切に期間損益に反映させることができると判断し、会計方針の変更を行うものであります。

この変更により、従来の方法による場合に比べて、当中間連結会計期間の経常利益及び税金等調整前中間純利益はそれぞれ215百万円減少しております。

## (5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

## (6) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払に備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

## (7) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当中間連結会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

## (8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

## (9) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度に基づく信用保証協会への将来の負担金の支払いに備えるため、負担金支払見込額を計上しております。

## (10) 利息返還損失引当金の計上基準

利息返還損失引当金は、連結子会社が利息制限法の上限金利を超過する貸付金利息の返還請求に備えるため、過去の返還状況等を勘案し、返還見込額を合理的に見積り計上しております。

## (11) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用： その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異： 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

なお、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

## (12) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を計上しております。

## (13) リース取引の処理方法

(貸手側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成23年3月25日)第81項に基づき、同会計基準適用初年度の前連結会計年度末における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上しております。

また、当該リース投資資産に関しては、会計基準適用後の残存期間における利息相当額の各期への配分方法は、定額法によっております。

なお、同適用指針第80項を適用した場合と比べ、税金等調整前中間純利益は2百万円(前中間連結会計期間は9百万円)増加しております。

## (14) 重要なヘッジ会計の方法

### (ア) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を個別に特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、業種別監査委員会報告第24号に基づき金利インデックスおよび一定の金利改定期間ごとにグループ内でヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため、高い有効性があると見なしており、これをもって有効性の判定に代えております。

なお、一部の資産・負債については、金利スワップ等の特例処理を行っております。

### (イ) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

## (15) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

## (16) 消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## (17) 収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

## (会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、[連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)]及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)]等を、当中間連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当行の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当中間連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する中間連結会計期間の中間連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、中間純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前中間連結会計期間については、中間連結財務諸表の組替えを行っております。

当中間連結会計期間の中間連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当中間連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当中間連結会計期間において、中間連結財務諸表に与える影響額はありません。

## (中間連結貸借対照表関係)

### 1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

出資金 778百万円

### 2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

61,049百万円

### 3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額 1,168百万円

延滞債権額 16,907百万円



なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4.貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3カ月以上延滞債権額 26百万円

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5.貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 4,456百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

6.破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 22,557百万円

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

7,751百万円

8.担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 181,942百万円  
計 181,942百万円

担保資産に対応する債務

預金 4,891百万円  
債券貸借取引受入担保金 35,971百万円  
借入金 46,858百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券 31,927百万円

また、その他資産には、先物取引差入証拠金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

先物取引差入証拠金 13百万円  
保証金 317百万円

9.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 541,448百万円  
うち原契約期間が1年以内のもの 530,526百万円  
(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内（社内）手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10.土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法（平成3年法律第69号）第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正、側方路線影響加算、間口狭小補正等により合理的な調整を行って算出する方法と、同法第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価を併用。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間連結会計期末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

3,991百万円

11.有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額 25,975百万円

12.「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

7,872百万円

#### (中間連結損益計算書関係)

1.その他経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益 1,955百万円

2.その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金繰入額 716百万円

#### (中間連結株主資本等変動計算書関係)

1.発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	170,000	—	—	170,000	
合計	170,000	—	—	170,000	
自己株式					
普通株式	6,554	3	—	6,557	(注)
合計	6,554	3	—	6,557	

(注) 普通株式の自己株式の増加3千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2.配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月24日 定額株主総会	普通株式	490	3.0	平成27年3月31日	平成27年6月25日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年11月13日 取締役会	普通株式	490	利益剰余金	3.0	平成27年9月30日	平成27年12月10日

#### (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	44,937百万円
当座預け金	△ 274百万円
普通預け金	△ 255百万円
定期預け金	△ 2,500百万円
ゆうちょ預け金	△ 61百万円
現金及び現金同等物	41,845百万円

# 中間連結財務諸表

## (リース取引関係)

(借手側)

### 1.ファイナンス・リース取引

#### (1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

##### ① リース資産の内容

有形固定資産

主として、車両及び電子計算機の一部であります。

##### ② リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5. 会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(貸手側)

### 1.ファイナンス・リース取引

#### (1) リース投資資産の内訳

リース料債権部分	10,919百万円
見積残存価額部分	570百万円
受取利息相当額	△ 1,540百万円
リース投資資産	9,949百万円

#### (2) リース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結決算日後の回収予定額

1年以内	3,523百万円
1年超2年以内	2,706百万円
2年超3年以内	2,082百万円
3年超4年以内	1,361百万円
4年超5年以内	739百万円
5年超	507百万円

## (金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表に含めておりません(注2)参照)。また、重要性が乏しいと思われる科目については表記を省略しております。

(単位：百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	44,937	44,937	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	7,865	7,911	45
その他有価証券	806,530	806,530	—
(3) 貸出金	1,528,747		
貸倒引当金(※1)	△6,404		
	1,522,343	1,544,840	22,497
資産計	2,381,677	2,404,220	22,542
(1) 預金	1,989,706	1,990,129	423
(2) 譲渡性預金	137,051	137,058	6
(3) コールマネー及び売渡手形	33,509	33,509	—
(4) 債券貸借取引受入担保金	35,971	35,971	—
(5) 借入金	49,939	49,946	7
(6) 新株予約権付社債	11,996	11,632	△363
負債計	2,258,174	2,258,247	73
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	160	160	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(4,042)	(4,042)	—
デリバティブ取引計	(3,881)	(3,881)	—

(※1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。  
(※2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

#### (1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、残存期間が1年以内と短期であり、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格等によっております。投資信託は公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、内部格付、期間に基づく区分ごとに、債券額面金額および利息の合計を同様の新規私募債を引受けした場合に想定される利率で割り引いて算定しております。

#### (3) 貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間(残存期間または金利の更改期間)に基づく区分ごとに、元利金の合計を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

## 負債

#### (1) 預金、及び(2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (3) コールマネー及び売渡手形、及び(4) 債券貸借取引受入担保金

これらは、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (5) 借入金

借入金については、借入金の種類及び内部格付、期間(残存期間または金利の更改期間)に基づく区分ごとに、元利金の合計を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、残存期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (6) 新株予約権付社債

当行の発行する社債の時価は、市場価格によっております。

#### デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引(金利オプション、金利スワップ等)、通貨関連取引(為替予約等)等であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2)有価証券」には含まれておりません。

区分	当中間連結会計期間
①非上場株式(※1)(※2)	1,524百万円
②その他(※3)	3,490百万円
合計	5,015百万円

(※1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(※2) 当中間連結会計期間において、非上場株式について2百万円減損処理を行っております。

(※3) その他については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

**(資産除去債務関係)**

当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高	120百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0百万円
時の経過による調整額	0百万円
資産除去債務の履行による減少額	—百万円
当中間連結会計期間末残高	121百万円

**(1株当たり情報)**

1.1株当たり純資産額	
1株当たり純資産額	885.83円
2.1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎	
(1) 1株当たり中間純利益金額	19.42円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する中間純利益	3,174百万円
普通株主に帰属しない金額	—百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益	3,174百万円
普通株式の期中平均株式数	163,444千株
(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	17.34円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する中間純利益調整額	—百万円
普通株式増加数	19,646千株
うち新株予約権付社債	19,646千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

**(会計方針の変更)**

〔「企業結合に関する会計基準」等の適用〕

「会計方針の変更」に記載のとおり、企業結合会計基準等を適用し、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っております。

なお、当中間連結会計期間において、1株当たり純資産額、1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額に与える影響はありません。

**連結リスク管理債権額**

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
破綻先債権額	1,944	1,168
延滞債権額	16,915	16,907
3カ月以上延滞債権額	52	26
貸出条件緩和債権額	2,610	4,456
合計	21,522	22,557

(注) 1. リスク管理債権額は、すでに引当処理済みの額や、担保処分等により回収が見込まれている額を含めて貸出金総額で記載しております。  
2. 部分直接償却は実施しておりません。

# セグメント情報

## セグメント情報

(単位：百万円)

	平成26年9月期						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	中間連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益	19,481	2,334	21,816	1,252	23,068	△453	22,614
外部顧客に対する経常収益	19,394	2,275	21,669	948	22,618	△3	22,614
セグメント間の内部経常収益	87	58	146	304	450	△450	—
セグメント利益	5,783	71	5,855	428	6,283	0	6,283
セグメント資産	2,392,030	12,617	2,404,647	17,125	2,421,773	△17,226	2,404,546
セグメント負債	2,254,730	8,843	2,263,574	12,658	2,276,232	△16,609	2,259,622
その他の項目							
減価償却費	545	7	553	3	556	—	556
資金運用収益	13,163	3	13,167	74	13,241	△51	13,189
資金調達費用	1,367	33	1,401	25	1,426	△45	1,381
有形固定資産および無形固定資産の増加額	896	33	929	—	929	—	929

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、調整額につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務代行、信用保証、データ処理、クレジットカードおよびベンチャーキャピタル業等を含んでおります。
3. 調整額は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△3百万円は、「その他」の貸倒引当金繰入額の調整であります。
- (2) 上記(1)以外はセグメント間取引消去であります。
4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(単位：百万円)

	平成27年9月期						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	中間連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益	19,329	2,486	21,815	1,345	23,161	△656	22,505
外部顧客に対する経常収益	19,217	2,426	21,643	1,013	22,657	△151	22,505
セグメント間の内部経常収益	111	60	172	332	504	△504	—
セグメント利益	4,496	75	4,571	423	4,994	2	4,996
セグメント資産	2,441,441	12,864	2,454,306	16,742	2,471,048	△16,256	2,454,791
セグメント負債	2,297,488	8,958	2,306,447	11,720	2,318,168	△16,039	2,302,128
その他の項目							
減価償却費	763	7	770	2	772	—	772
資金運用収益	13,110	2	13,113	63	13,176	△54	13,122
資金調達費用	1,360	34	1,394	26	1,420	△49	1,371
有形固定資産および無形固定資産の増加額	972	28	1,001	—	1,001	—	1,001

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、調整額につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務代行、信用保証、データ処理、クレジットカードおよびベンチャーキャピタル業等を含んでおります。
3. 調整額は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△151百万円は、「銀行業」及び「その他」の貸倒引当金繰入額の調整であります。
- (2) 上記(1)以外はセグメント間取引消去であります。
4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

# 中間財務諸表

当行は、平成26年9月中間会計期間及び平成27年9月中間会計期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

以下の中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、上記の中間財務諸表に基づいて作成しております。

## 中間貸借対照表 (資産の部)

(単位：百万円)

	第203期 中間会計期間末	第204期 中間会計期間末
現金預け金	60,457	44,930
コールローン	21,510	1,708
買入金銭債権	7,291	6,943
商品有価証券	66	38
有価証券	839,170	819,350
貸出金	1,433,010	1,537,837
外国為替	1,038	1,280
その他資産	4,684	4,219
その他の資産	4,684	4,219
有形固定資産	13,603	13,421
無形固定資産	1,050	1,277
前払年金費用	—	852
支払承諾見返	15,315	14,930
貸倒引当金	△5,885	△6,065
資産の部合計	2,391,313	2,440,724

## (負債の部)

(単位：百万円)

	第203期 中間会計期間末	第204期 中間会計期間末
預金	1,945,072	1,990,609
譲渡性預金	133,429	142,981
コールマネー	50,180	33,509
債券貸借取引受入担保金	30,399	35,971
借入金	46,206	46,887
外国為替	53	95
新株予約権付社債	10,945	11,996
その他負債	13,302	11,976
未払法人税等	1,494	1,569
リース債務	75	67
資産除去債務	120	121
その他の負債	11,612	10,218
役員賞与引当金	10	10
退職給付引当金	353	—
役員退職慰労引当金	279	247
睡眠預金払戻損失引当金	176	87
偶発損失引当金	193	253
繰延税金負債	7,228	6,533
再評価に係る繰延税金負債	1,584	1,399
支払承諾	15,315	14,930
負債の部合計	2,254,730	2,297,488

## (純資産の部)

(単位：百万円)

	第203期 中間会計期間末	第204期 中間会計期間末
資本金	12,008	12,008
資本剰余金	4,932	4,932
資本準備金	4,932	4,932
利益剰余金	103,288	109,047
利益準備金	7,076	7,076
その他利益剰余金	96,212	101,971
別途積立金	91,020	97,020
繰越利益剰余金	5,192	4,951
自己株式	△2,965	△2,973
株主資本合計	117,263	123,014
その他有価証券評価差額金	20,910	21,837
繰延ヘッジ損益	△2,694	△2,752
土地再評価差額金	1,103	1,135
評価・換算差額等合計	19,319	20,220
純資産の部合計	136,582	143,235
負債及び純資産の部合計	2,391,313	2,440,724

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

	第203期 中間会計期間	第204期 中間会計期間
経常収益	19,481	19,329
資金運用収益	13,163	13,110
(うち貸出金利息)	(9,427)	(9,125)
(うち有価証券利息配当金)	(3,635)	(3,887)
役務取引等収益	3,153	3,225
その他業務収益	1,832	575
その他経常収益	1,332	2,418
経常費用	13,697	14,832
資金調達費用	1,367	1,360
(うち預金利息)	(680)	(650)
役務取引等費用	1,270	1,284
その他業務費用	44	360
営業経費	10,798	10,694
その他経常費用	216	1,132
経常利益	5,783	4,496
特別利益	0	—
特別損失	166	91
税引前中間純利益	5,617	4,405
法人税、住民税及び事業税	1,287	1,657
法人税等調整額	546	△394
法人税等合計	1,834	1,263
中間純利益	3,782	3,142

中間株主資本等変動計算書

第203期中間会計期間

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	12,008	4,932	5	4,937	7,076	86,020	8,107	101,203
会計方針の変更による累積的影響額							△189	△189
会計方針の変更を反映した当期首残高	12,008	4,932	5	4,937	7,076	86,020	7,918	101,014
当中間期変動額								
剰余金の配当							△511	△511
中間純利益							3,782	3,782
別途積立金の積立						5,000	△5,000	—
自己株式の取得								
自己株式の消却			△5	△5			△967	△967
土地再評価差額金の取崩							△30	△30
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計	—	—	△5	△5	—	5,000	△2,725	2,274
当中間期末残高	12,008	4,932	—	4,932	7,076	91,020	5,192	103,288

(単位：百万円)

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△828	117,320	18,332	△2,370	1,073	17,034	134,355
会計方針の変更による累積的影響額		△189					△189
会計方針の変更を反映した当期首残高	△828	117,131	18,332	△2,370	1,073	17,034	134,166
当中間期変動額							
剰余金の配当		△511					△511
中間純利益		3,782					3,782
別途積立金の積立		—					—
自己株式の取得	△3,109	△3,109					△3,109
自己株式の消却	972	—					—
土地再評価差額金の取崩		△30					△30
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)			2,577	△323	30	2,284	2,284
当中間期変動額合計	△2,136	131	2,577	△323	30	2,284	2,416
当中間期末残高	△2,965	117,263	20,910	△2,694	1,103	19,319	136,582

第204期中間会計期間

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	12,008	4,932	—	4,932	7,076	91,020	8,256	106,352
会計方針の変更による累積的影響額								
会計方針の変更を反映した当期首残高	12,008	4,932	—	4,932	7,076	91,020	8,256	106,352
当中間期変動額								
剰余金の配当							△490	△490
中間純利益							3,142	3,142
別途積立金の積立						6,000	△6,000	—
自己株式の取得								
自己株式の消却								
土地再評価差額金の取崩							43	43
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	6,000	△3,304	2,695
当中間期末残高	12,008	4,932	—	4,932	7,076	97,020	4,951	109,047

(単位：百万円)

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△2,972	120,321	26,862	△2,845	1,179	25,197	145,518
会計方針の変更による累積的影響額							—
会計方針の変更を反映した当期首残高	△2,972	120,321	26,862	△2,845	1,179	25,197	145,518
当中間期変動額							
剰余金の配当		△490					△490
中間純利益		3,142					3,142
別途積立金の積立		—					—
自己株式の取得	△1	△1					△1
自己株式の消却							—
土地再評価差額金の取崩		43					43
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)			△5,025	93	△43	△4,976	△4,976
当中間期変動額合計	△1	2,693	△5,025	93	△43	△4,976	△2,282
当中間期末残高	△2,973	123,014	21,837	△2,752	1,135	20,220	143,235



## 注記事項（第204期中間会計期間） （重要な会計方針）

### 1.商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

### 2.有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

### 3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

### 4.固定資産の減価償却の方法

#### （1）有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定額法により償却しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物： 2年～50年

その他： 2年～15年

#### （2）無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

#### （3）リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

当行の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法は、従来、定率法を採用しておりましたが、当中間会計期間より定額法へ変更しております。

当行は、当期よりスタートした長期経営計画「やまぎん・イノベーション・プランⅢ」において、ATMなどへの積極的な投資とともに、営業店舗の建替・改修工事も予定しております。これらの案件に対する投資検討開始を契機として、有形固定資産の減価償却方法を検討した結果、当行の営業店舗及び事務機器等は長期安定的に使用され、その使用価値は存続期間を通じて概ね一定であるため、使用実態にあわせて、使用可能期間である耐用年数にわたり均等に費用配分を行う定額法が経営の実態をより適切に期間損益に反映させることができると判断し、会計方針の変更を行うものであります。この変更により、従来の方針によった場合に比べて、当中間会計期間の経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ215百万円減少しております。

### 5.引当金の計上基準

#### （1）貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

#### （2）役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払に備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

#### （3）退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準による計上しております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用： その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異： 各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日から損益処理

#### （4）役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当中間会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

#### （5）睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

#### （6）偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度に基づく信用保証協会への将来の負担金の支払いに備えるため、負担金支払見込額を計上しております。

### 6.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

### 7.ヘッジ会計の方法

#### （ア）金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下「業種別監査委員会報告第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについては、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を個別に特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、業種別監査委員会報告第24号に基づき金利インデックス及び一定の金利改定期間ごとにグルーピングしてヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため、高い有効性があると見なしており、これをもって有効性の判定に代えております。

なお、一部の資産・負債については、金利スワップ等の特例処理を行っております。

#### （イ）為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

### 8.その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### （1）退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### （2）消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

### （会計方針の変更）

（「企業結合に関する会計基準」等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を、当中間会計期間から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当中間会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する中間会計期間の中間財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）及び事業分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当中間会計期間において、中間財務諸表に与える影響額はありません。また、当中間会計期間において、1株当たり純資産額、1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額に与える影響はありません。

# 中間財務諸表

## (中間貸借対照表関係)

1.関係会社の株式又は出資金の総額	
株式	21百万円
出資金	778百万円
2.無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸付けている有価証券が「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。	61,049百万円
3.貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。	
破綻先債権額	1,139百万円
延滞債権額	16,810百万円
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。	
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。	
4.貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。	
3カ月以上延滞債権額	一百万円
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。	
5.貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。	
貸出条件緩和債権額	4,449百万円
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。	
6.破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。	
合計額	22,399百万円
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。	
7.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。	7,751百万円
8.担保に供している資産は次のとおりであります。	
担保に供している資産	
有価証券	181,942百万円
計	181,942百万円
担保資産に対応する債務	
預金	4,891百万円
債券貸借取引受入担保金	35,971百万円
借入金	46,858百万円
上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。	
有価証券	31,927百万円
また、その他の資産には、先物取引差入証拠金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。	
先物取引差入証拠金	13百万円
保証金	316百万円
9.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。	
融資未実行残高	525,311百万円
うち原契約期間が1年以内のもの	514,389百万円
（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）	
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。	
10.「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当社の保証債務の額	7,872百万円

## (中間損益計算書関係)

1.その他経常収益には、次のものを含んでおります。	
株式等売却益	1,955百万円
2.減価償却実施額は次のとおりであります。	
有形固定資産	571百万円
無形固定資産	189百万円
3.その他経常費用には、次のものを含んでおります。	
貸倒引当金繰入額	873百万円

## (有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式  
子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 子会社株式21百万円、投資事業組合出資金778百万円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。



## 国内・国際業務部門別粗利益

(単位：百万円、%)

	平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
資金運用収支	11,796	11,170	624	11,749	10,902	846
資金運用収益	13,163	12,496	733	13,110	12,179	996
資金調達費用	1,367	1,325	108	1,360	1,276	149
役務取引等収支	1,882	1,873	8	1,940	1,934	6
役務取引等収益	3,153	3,128	24	3,225	3,200	24
役務取引等費用	1,270	1,254	15	1,284	1,265	18
その他業務収支	1,788	1,637	150	214	256	△41
その他業務収益	1,832	1,682	150	575	541	33
その他業務費用	44	44	—	360	285	75
業務粗利益	15,466	14,681	783	13,904	13,093	811
業務粗利益率	1.37	1.31	1.17	1.19	1.14	1.10

- (注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。  
 ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。  
 2. 業務粗利益率＝業務粗利益÷資金運用勘定平均残高×100  
 3. 業務粗利益率は年換算で算出しております。

## 資金運用勘定・調達勘定の平均残高等

(単位：百万円、%)

	平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
資金運用勘定	2,251,274	(106,046) 2,224,434	132,886	2,322,821	(107,500) 2,283,327	146,994
利息	13,163	(66) 12,496	733	13,110	(65) 12,179	996
利回り	1.17	1.12	1.10	1.13	1.06	1.35
資金調達勘定	2,173,472	2,146,449	(106,046) 133,069	2,244,865	2,205,184	(107,500) 147,182
利息	1,367	1,325	(66) 108	1,360	1,276	(65) 149
利回り	0.13	0.12	0.16	0.12	0.12	0.20

- (注) 1. ( ) 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。  
 2. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（平成26年9月中間期 12,997百万円、平成27年9月中間期 12,055百万円）をそれぞれ控除して表示しております。

## 受取利息・支払利息の分析

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期								
				国内業務部門			国際業務部門		
	残高による 増減	利率による 増減	純増減	残高による 増減	利率による 増減	純増減	残高による 増減	利率による 増減	純増減
受取利息	413	△760	△346	288	△954	△666	45	250	295
支払利息	52	△238	△186	37	△217	△180	14	△44	△29
	平成27年9月中間期								
				国内業務部門			国際業務部門		
	残高による 増減	利率による 増減	純増減	残高による 増減	利率による 増減	純増減	残高による 増減	利率による 増減	純増減
受取利息	418	△471	△52	330	△647	△317	77	185	263
支払利息	44	△51	△6	36	△85	△48	11	29	40

- (注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減要因に含めて記載しております。

役務取引の状況

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
役 務 取 引 等 収 益	3,153	3,128	24	3,225	3,200	24
預 金 ・ 貸 出 業 務	465	465	—	540	540	—
為 替 業 務	793	769	24	781	757	24
証 券 関 連 業 務	75	75	—	57	57	—
代 理 業 務	538	538	—	534	534	—
保 護 預 り ・ 貸 金 庫 業 務	53	53	—	51	51	—
保 証 業 務	31	30	0	31	31	0
役 務 取 引 等 費 用	1,270	1,254	15	1,284	1,265	18
為 替 業 務	173	164	8	173	163	9

その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
そ の 他 業 務 利 益	1,788	1,637	150	214	256	△41
外 国 為 替 売 買 益	32	—	32	△20	—	△20
商 品 有 価 証 券 売 買 益	0	0	—	0	0	—
国 債 等 債 券 売 却 損 益	1,750	1,625	125	247	268	△21
国 債 等 債 券 償 還 損 益	—	—	—	—	—	—
国 債 等 債 券 償 却	—	—	—	—	—	—
そ の 他	5	12	△6	△12	△12	0

業務純益

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
業 務 純 益	4,701	2,593

(注) 業務純益＝業務収益－(業務費用－金銭の信託運用見合費用)  
 業務収益＝資金運用収益＋役務取引等収益＋その他業務収益  
 業務費用＝資金調達費用＋役務取引等費用＋その他業務費用＋経費(臨時的経費を除く)

営業経費の内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
給 料 ・ 手 当	4,681	4,695
退 職 給 付 費 用	173	83
福 利 厚 生 費	710	737
減 価 償 却 費	545	763
土 地 建 物 機 械 賃 借 料	235	230
営 繕 費	31	20
消 耗 品 費	156	146
給 水 光 熱 費	126	119
旅 費	43	38
通 信 費	221	220
広 告 宣 伝 費	122	112
租 税 公 課	727	714
そ の 他	3,021	2,810
合 計	10,798	10,694

## [預金業務]

### 預金科目別平均残高

(単位：百万円、%)

		平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門		国際業務部門	国内業務部門		国際業務部門
預金	流動性預金	1,051,038 ( 49.70)	1,051,038 ( 49.83)	— ( —)	1,104,026 ( 51.30)	1,104,026 ( 51.46)	— ( —)
	うち有利息預金	939,799 ( 44.44)	939,799 ( 44.56)	— ( —)	977,523 ( 45.41)	977,523 ( 45.56)	— ( —)
	定期性預金	886,443 ( 41.93)	886,443 ( 42.03)	— ( —)	869,208 ( 40.39)	869,208 ( 40.51)	— ( —)
	うち固定金利定期預金	879,551 ( 41.59)	879,551 ( 41.70)		861,928 ( 40.04)	861,928 ( 40.17)	
	うち変動金利定期預金	381 ( 0.01)	381 ( 0.02)		343 ( 0.01)	343 ( 0.02)	
その他	14,666 ( 0.69)	9,482 ( 0.45)	5,183 ( 100.00)	16,825 ( 0.78)	10,040 ( 0.47)	6,785 ( 100.00)	
合計	1,952,148 ( 92.32)	1,946,964 ( 92.31)	5,183 ( 100.00)	1,990,060 ( 92.46)	1,983,275 ( 92.44)	6,785 ( 100.00)	
譲渡性預金	162,255 ( 7.68)	162,255 ( 7.69)	— ( —)	162,243 ( 7.54)	162,243 ( 7.56)	— ( —)	
総合計	2,114,403 ( 100.00)	2,109,220 ( 100.00)	5,183 ( 100.00)	2,152,303 ( 100.00)	2,145,518 ( 100.00)	6,785 ( 100.00)	

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金  
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金  
 固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金  
 変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金  
 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
 4. ( ) 内は、構成比率であります。

### 預金者別預金残高

(単位：百万円、%)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
個人預金	1,437,516 ( 73.91)	1,470,369 ( 73.87)
法人預金	413,361 ( 21.25)	433,343 ( 21.77)
その他	94,195 ( 4.84)	86,897 ( 4.36)
合計	1,945,072 ( 100.00)	1,990,609 ( 100.00)

- (注) 1. ( ) 内は、構成比率であります。  
 2. その他は、公金預金、金融機関預金であります。  
 3. 譲渡性預金は含んでおりません。

### 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	期間 期別	期間						合計
		3ヶ月未満	3ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	
定期預金	平成26年9月30日	212,269	170,287	289,007	85,585	76,499	35,484	869,133
	平成27年9月30日	204,186	170,307	294,009	92,805	83,384	17,305	861,997
うち固定金利 定期預金	平成26年9月30日	212,182	170,228	288,944	85,458	76,457	35,484	868,755
	平成27年9月30日	204,154	170,267	293,962	92,743	83,230	17,305	861,663
うち変動金利 定期預金	平成26年9月30日	87	59	62	126	41	—	377
	平成27年9月30日	31	39	46	62	153	—	333

### 財形貯蓄残高

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
一般財形	22,156	22,303
財形年金	7,304	7,192
財形住宅	1,990	1,861
合計	31,450	31,356

## [融資業務]

### 貸出金科目別平均残高

(単位：百万円、%)

		平成26年9月中間期		平成27年9月中間期			
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門	
貸出金	手形貸付	29,398 ( 2.09)	28,926 ( 2.06)	471 ( 10.12)	31,392 ( 2.09)	30,766 ( 2.06)	625 ( 9.69)
	証書貸付	1,214,317 ( 86.10)	1,210,128 ( 86.09)	4,189 ( 89.88)	1,296,688 ( 86.38)	1,290,854 ( 86.36)	5,834 ( 90.31)
	当座貸越	158,532 ( 11.24)	158,532 ( 11.28)	— ( —)	165,495 ( 11.02)	165,495 ( 11.07)	— ( —)
	割引手形	8,106 ( 0.57)	8,106 ( 0.57)	— ( —)	7,661 ( 0.51)	7,661 ( 0.51)	— ( —)
	合計	1,410,354 ( 100.00)	1,405,693 ( 100.00)	4,660 ( 100.00)	1,501,238 ( 100.00)	1,494,777 ( 100.00)	6,460 ( 100.00)

(注) 1. 国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
2. ( ) 内は、構成比率であります。

### 貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

貸出金	期間 期別	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合計
		平成26年9月30日	200,044	286,767	221,702	142,529	414,134	167,832
	平成27年9月30日	214,703	296,845	240,942	151,723	459,684	173,937	1,537,837
うち変動金利	平成26年9月30日		114,947	87,955	56,165	133,311	167,832	
	平成27年9月30日		116,708	111,782	58,600	179,893	173,937	
うち固定金利	平成26年9月30日		171,820	133,746	86,363	280,823	—	
	平成27年9月30日		180,136	129,160	93,122	279,790	—	

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

### 貸出金の担保別内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
有価証券	27	39
債権	12,177	12,614
商品	—	—
不動産	80,304	82,421
その他	7,406	9,757
計	99,915	104,832
保証	656,145	715,196
信用	676,950	717,808
合計 (うち劣後特約貸出金)	1,433,010 (1,670)	1,537,837 (1,670)

### 担保別支払承諾見返額

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
有価証券	—	—
債権	43	46
商品	6	1
不動産	2,770	1,809
その他	217	252
計	3,038	2,110
保証	6,526	6,441
信用	5,750	6,377
合計	15,315	14,930

## 貸出金業種別内訳

(単位：百万円、%)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,433,010 ( 100.00)	1,537,837 ( 100.00)
製造業	175,475 ( 12.25)	175,101 ( 11.39)
農業・林業	4,506 ( 0.31)	5,901 ( 0.38)
漁業	1,783 ( 0.12)	1,167 ( 0.07)
鉱業・採石業・砂利採取業	333 ( 0.02)	294 ( 0.02)
建設業	44,339 ( 3.09)	47,978 ( 3.12)
電気・ガス・熱供給・水道業	26,547 ( 1.85)	30,238 ( 1.97)
情報通信業	6,533 ( 0.45)	6,059 ( 0.39)
運輸業・郵便業	21,890 ( 1.53)	21,837 ( 1.42)
卸売業・小売業	158,733 ( 11.08)	160,513 ( 10.44)
金融業・保険業	96,119 ( 6.71)	88,464 ( 5.75)
不動産業・物品賃貸業	141,665 ( 9.89)	158,828 ( 10.33)
各種サービス業	89,524 ( 6.25)	94,670 ( 6.16)
地方公共団体	277,524 ( 19.37)	313,874 ( 20.41)
その他	388,031 ( 27.08)	432,901 ( 28.15)
海外店及び特別国際金融取引勘定分	— —	— —
政府等	— —	— —
金融機関	— —	— —
商業	— —	— —
その他	— —	— —
合 計	1,433,010 ( 100.00)	1,537,837 ( 100.00)

(注) ( ) 内は、構成比率であります。

## 貸出金使途別内訳

(単位：百万円、%)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
設備資金	572,815 ( 39.97)	636,092 ( 41.36)
運転資金	860,195 ( 60.03)	901,745 ( 58.64)
合 計	1,433,010 ( 100.00)	1,537,837 ( 100.00)

(注) 1. 本表の貸出金残高は、貸出金業種別内訳と同一基準により記載しております。  
2. ( ) 内は、構成比率であります。

## 中小企業等向貸出残高

(単位：百万円、%)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
中小企業等向貸出	806,908	883,094
総貸出に対する比率	56.31	57.42

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

## 消費者ローン・住宅ローン残高

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
消費者ローン	21,071	26,199
住宅ローン	365,060	403,902
合 計	386,131	430,101

## 貸出金償却額

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
貸出金償却額	1	—

(注) 貸出金償却額は、貸出金及び貸出金利息の償却額から、既に繰入済の個別貸倒引当金の当該償却に係る取崩額を控除した額を計上しております。

貸倒引当金の内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期					平成27年9月中間期				
	期首残高	当中間期増加額	当中間期減少額		中間期末残高	期首残高	当中間期増加額	当中間期減少額		中間期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	2,183	1,822	—	2,183	1,822	2,068	2,615	—	2,068	2,615
個別貸倒引当金	4,320	4,062	218	4,102	4,062	3,136	3,449	12	3,124	3,449
うち 非住居者向債権分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	6,504	5,885	218	6,285	5,885	5,205	6,065	12	5,192	6,065

リスク管理債権額

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
破綻先債権額	1,904	1,139
延滞債権額	16,798	16,810
3ヵ月以上延滞債権額	23	—
貸出条件緩和債権額	2,602	4,449
合計	21,328	22,399

- (注) 1. リスク管理債権額は、すでに引当処理済みの額や、担保処分等により回収が見込まれている額を含めて貸出金総額で記載しています。  
 2. 部分直接償却は実施しておりません。  
 3. 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
 4. 延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債権者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。  
 5. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。  
 6. 貸出条件緩和債権とは、債権者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債権者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」に基づく資産の査定額

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,366	3,321
危険債権	14,501	14,783
要管理債権	2,626	4,449
小計	21,494	22,554
正常債権	1,437,102	1,539,486
総計	1,458,596	1,562,040

(単位：百万円)

平成27年9月30日	要管理債権	危険債権	破産更生債権	開示額合計	平成27年3月期比
開示債権額 ①	4,449	14,783	3,321	22,554	1,237
担保等による保全部分 ②	1,676	12,086	2,039	15,802	388
対象債権に対する貸倒引当金 ③	377	2,168	1,281	3,827	560
保全額 ④=②+③	2,054	14,254	3,321	19,629	948
保全率 (%) ④÷①	46.16	96.42	100.00	87.03	△0.60
担保等による保全のない部分 ⑤=①-②	2,773	2,697	1,281	6,752	849
引当率 (%)	13.60	80.39	100.00	56.68	1.34
総与信に占める割合 (%)	0.28	0.95	0.21	1.44	0.03

## [証券業務]

### 保有有価証券平均残高

(単位：百万円、%)

		平成26年9月中間期		平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門	
国債	413,074 ( 51.05)	413,074 ( 59.44)	— ( —)	345,085 ( 43.23)	345,085 ( 51.57)	— ( —)
地方債	128,376 ( 15.86)	128,376 ( 18.47)	— ( —)	130,677 ( 16.37)	130,677 ( 19.53)	— ( —)
短期社債	— ( —)	— ( —)	— ( —)	— ( —)	— ( —)	— ( —)
社債	104,580 ( 12.92)	104,580 ( 15.05)	— ( —)	121,387 ( 15.21)	121,387 ( 18.14)	— ( —)
株式	22,560 ( 2.79)	22,560 ( 3.25)	— ( —)	20,671 ( 2.59)	20,671 ( 3.09)	— ( —)
その他の証券	140,629 ( 17.38)	26,305 ( 3.79)	114,323 ( 100.00)	180,473 ( 22.60)	51,351 ( 7.67)	129,121 ( 100.00)
うち外国債券	113,796 ( 14.06)	— ( —)	113,796 ( 99.53)	125,621 ( 15.74)	— ( —)	125,621 ( 97.29)
うち外国株式	0 ( 0.00)	— ( —)	0 ( 0.01)	0 ( 0.00)	— ( —)	0 ( 0.00)
合計	809,221 ( 100.00)	694,897 ( 100.00)	114,323 ( 100.00)	798,295 ( 100.00)	669,173 ( 100.00)	129,121 ( 100.00)

(注) 1. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
2. ( ) 内は、構成比率であります。

### 有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

	期別	期間						期間の定めのないもの	合計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超		
国債	平成26年9月30日	62,825	73,689	93,117	90,495	65,852	14,241	—	400,221
	平成27年9月30日	45,111	77,292	99,347	46,712	47,665	25,422	—	341,552
地方債	平成26年9月30日	4,438	23,970	61,854	9,593	8,538	23,546	—	131,941
	平成27年9月30日	17,778	26,510	54,801	4,469	8,094	21,572	—	133,225
短期社債	平成26年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
	平成27年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	平成26年9月30日	15,847	38,528	40,875	10,093	7,560	—	—	112,905
	平成27年9月30日	19,760	46,284	32,071	13,789	6,292	—	—	118,199
株式	平成26年9月30日	/	/	/	/	/	/	37,746	37,746
	平成27年9月30日	/	/	/	/	/	/	38,872	38,872
その他の証券	平成26年9月30日	11,544	25,880	34,228	39,544	30,157	2,750	12,250	156,355
	平成27年9月30日	19,064	19,903	52,562	29,761	40,762	1,774	23,671	187,500
うち外国債券	平成26年9月30日	7,555	24,821	30,234	34,129	23,977	2,750	—	123,468
	平成27年9月30日	15,666	17,404	42,942	22,146	27,664	1,769	—	127,593
うち外国株式	平成26年9月30日	/	/	/	/	/	/	0	0
	平成27年9月30日	/	/	/	/	/	/	0	0

### 商品有価証券平均残高

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
商品国債	19	20
商品地方債	42	19
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	61	40

## [時価等情報]

中間貸借対照表の「有価証券」の他、「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

### 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

種類	平成26年9月30日			平成27年9月30日			
	中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額	
時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの	国債	—	—	—	—	—	
	地方債	—	—	—	—	—	
	短期社債	—	—	—	—	—	
	社債	7,832	7,983	151	7,274	7,398	124
	その他	—	—	—	—	—	—
	小計	7,832	7,983	151	7,274	7,398	124
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—	—	—	
	地方債	—	—	—	—	—	
	短期社債	—	—	—	—	—	
	社債	891	868	△23	591	512	△78
	その他	—	—	—	—	—	—
	小計	891	868	△23	591	512	△78
合計	8,723	8,851	128	7,865	7,911	45	

### 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

(単位：百万円)

	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社・子法人等株式	—	—	—	—	—	—
関連法人等株式	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社・子法人及び関連法人等株式

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額
子会社・子法人等株式	21	21
関連法人等株式	—	—
投資事業組合出資金	476	778
合計	497	799

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社・子法人等株式及び関連法人等株式」には含めておりません。



## その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株 式	35,310	19,372	15,938	34,089	16,307	17,781
	債 券	604,989	593,041	11,947	522,751	511,047	11,704
	国 債	372,281	366,919	5,361	282,540	276,777	5,763
	地 方 債	131,941	127,041	4,900	131,412	127,020	4,392
	短 期 社 債	—	—	—	—	—	—
	社 債	100,765	99,080	1,684	108,797	107,249	1,548
	そ の 他	128,437	123,808	4,628	132,822	128,308	4,514
	外 国 債 券	100,523	98,930	1,593	105,762	103,319	2,443
	そ の 他	27,914	24,878	3,035	27,060	24,989	2,070
	小 計	768,737	736,222	32,514	689,663	655,664	33,999
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株 式	909	1,076	△166	3,269	3,820	△551
	債 券	31,356	31,423	△67	62,360	62,434	△74
	国 債	27,939	27,995	△55	59,011	59,083	△71
	地 方 債	—	—	—	1,813	1,813	—
	短 期 社 債	—	—	—	—	—	—
	社 債	3,416	3,428	△11	1,535	1,538	△2
	そ の 他	29,293	29,567	△273	53,665	55,118	△1,452
	外 国 債 券	22,945	23,171	△226	21,830	22,097	△266
	そ の 他	6,348	6,396	△47	31,834	33,020	△1,185
	小 計	61,560	62,067	△507	119,295	121,373	△2,078
合 計		830,297	798,290	32,006	808,959	777,038	31,921

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

種 類	平成26年9月30日	平成27年9月30日
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額
株 式	1,504	1,492
そ の 他	19	2,711
合 計	1,524	4,204

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 金銭の信託関係

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
評 価 差 額	32,006	31,921
そ の 他 有 価 証 券	32,006	31,921
(△) 繰 延 税 金 負 債	△11,096	△10,083
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	20,910	21,837

## [デリバティブ取引情報]

### 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価算定方法は、次のとおりであります。

なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

### 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成26年9月30日				平成27年9月30日			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
店頭	金利先渡契約								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利スワップ								
	受取固定・支払変動	4,290	4,290	△0	32	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	4,290	4,290	△16	△16	—	—	—	—
	受取変動・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他								
売建	—	—	—	—	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計			△16	15			—	—	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

## 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成26年9月30日				平成27年9月30日			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—
	為替予約								
	売建	5,520	—	△158	△158	20,801	—	167	167
	買建	2,259	—	3	3	455	—	△0	△0
	通貨オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他								
売建	—	—	—	—	—	—	—	—	
買建	—	—	—	—	—	—	—	—	
	合計			△155	△155			167	167

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引現在価値等により算定しております。

## 株式関連取引

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成26年9月30日				平成27年9月30日			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物								
	売建	—	—	—	—	2,700	—	△6	△6
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	債券先物オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
店頭	債券店頭オプション								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他								
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計			—	—			△6	△6

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

## 商品関連取引

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## クレジット・デリバティブ取引

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

### 金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
			契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的処理方法	金利スワップ	貸出金、預金、						
	受取固定・支払変動	有価証券	—	—	—	—	—	—
	受取変動・支払固定		73,365	69,365	△4,157	67,659	64,259	△4,048
	金利先物		—	—	—	—	—	—
	金利オプション		—	—	—	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—
金利スワップの特例処理	金利スワップ	貸出金						
	受取固定・支払変動		—	—		—	—	
	受取変動・支払固定		10,000	10,000	(注3)	10,000	10,000	(注3)
	その他	貸出金						
	買建		5,000	5,000		3,000	—	
合計					△4,157			△4,048

- (注) 1. 主として、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2. 時価の算定  
取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は本表には記載していません。

### 通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
			契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的処理方法	通貨スワップ		35,950	—	△96	7,588	4,078	6
	為替予約	外貨建コールマネー、有価証券	—	—	—	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—
為替予約等の振当処理	通貨スワップ		—	—	—	—	—	—
	為替予約		—	—	—	—	—	—
合計					△96			6

- (注) 1. 主として、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2. 時価の算定  
割引現在価値等により算定しております。

### 株式関連取引

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## 債券関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	平成26年9月30日			平成27年9月30日		
			契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価
原 則 的 処 理 方 法	債券先物	その他有価証券	15,000	—	10	—	—	—
	債券先物オプション		—	—	—	—	—	—
	債券店頭オプション		—	—	—	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—
ヘッジ対象に 係る損益を 認識する方法	債券先物		—	—	—	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—
	合 計				10			—

(注) 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

## [その他]

### 特定海外債権残高

平成26年9月中間期、平成27年9月中間期とも、該当事項はございません。

## [経営指標]

### 利鞘

(単位：%)

	平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
資金運用利回り	1.17	1.12	1.10	1.13	1.06	1.35
資金調達原価	1.11	1.11	0.32	1.08	1.08	0.34
総資金利鞘	0.05	0.01	0.78	0.05	△0.02	1.01

(注)「国内業務部門」とは本邦店の円建諸取引であります。

### 預貸率・預証率

(単位：%)

		平成26年9月中間期			平成27年9月中間期		
			国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門
預貸率	(中間期末)	67.16	67.09	95.80	70.91	70.84	89.39
	(期中平均)	64.98	64.92	89.71	68.62	68.53	95.22
預証率	(中間期末)	40.37	34.53	2,163.06	38.40	32.54	1,677.49
	(期中平均)	38.27	32.97	2,195.46	37.09	31.35	1,851.46

### 利益率

(単位：%)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
総資産経常利益率	0.50	0.37
純資産経常利益率	8.51	6.21
総資産中間純利益率	0.32	0.26
純資産中間純利益率	5.56	4.34

(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times 100$

2. 純資産経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{純資産平均(平均勘定)残高}} \times 100$

3. 上記計数は年換算で算出しております。

# 資本・株式の状況

## 資本金の推移

(単位：百万円)

	昭和47年1月	昭和48年10月	昭和52年4月	昭和54年10月	昭和57年9月	平成元年4月	平成元年5月	平成9年4月
資本金	2,000	3,000	4,050	5,900	7,200	9,004	9,379	12,008

## 株式数

(単位：千株)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
発行可能株式総数	298,350	298,350
発行済株式の総数	170,000	170,000

## 株主数

(単位：名)

	平成26年9月30日	平成27年9月30日
株主数	8,457	8,295

## 株式の所有者別内訳

(平成27年9月30日現在)

	株式の状況 (1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数	2人	59	25	1,028	124	1	5,447	6,686	
所有株式数	32単元	62,513	1,686	37,162	13,166	2	53,951	168,512	1,488,000株
割合	0.02%	37.10	1.00	22.05	7.81	0.00	32.02	100.00	

(注) 自己株式6,557,471株は「個人その他」に6,557単元、「単元未満株式の状況」に471株含まれております。

## 大株主一覧

(平成27年9月30日現在)

氏名または名称	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式の割合
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	7,190 千株	4.22 %
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,887	4.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,706	3.94
両羽協和株式会社	6,048	3.55
山形銀行従業員持株会	4,198	2.46
日本生命保険相互会社	3,551	2.08
住友生命保険相互会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	3,543	2.08
東京海上日動火災保険株式会社	3,194	1.87
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	2,110	1.24
株式会社合同資源	2,015	1.18
計	45,444	26.73

(注) 当行は、自己株式6,557千株 (発行済株式総数に対する所有株式数の割合は3.85%) を保有しておりますが、上記には記載しておりません。

# 自己資本充実の状況

銀行法施行規則（昭和57年大蔵省令第10号。以下「規則」という。）第19条の2第1項第5号二等に規定する自己資本充実の状況について金融庁長官が別に定める事項（平成26年2月18日 金融庁告示第7号、自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度に係る説明書類に記載すべき事項を当該告示に則り、本章で開示しております。

なお、本章中における「自己資本比率告示」および「告示」は、平成18年3月27日 金融庁告示第19号、自己資本比率規制の第1の柱（最低所要自己資本比率）を指しております。

## 【自己資本の構成に関する開示事項】 連結

（単位：百万円）

項 目	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
		経過措置による 不算入額		経過措置による 不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目 (1)</b>				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	117,189		123,022	
うち、資本金及び資本剰余金の額	16,942		16,942	
うち、利益剰余金の額	103,703		109,544	
うち、自己株式の額 (△)	2,965		2,973	
うち、社外流出予定額 (△)	490		490	
うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	—		209	
うち、為替換算調整勘定	—		—	
うち、退職給付に係るものの額	—		209	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—		—	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	2,265		2,928	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	2,265		2,928	
うち、適格引当金コア資本算入額	—		—	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,209		1,026	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	7,255		7,092	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	127,920		134,280	
<b>コア資本に係る調整項目 (2)</b>				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	—	1,098	262	1,050
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	—	—	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	1,098	262	1,050
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—	—	—
適格引当金不足額	—	—	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—	—	—
退職給付に係る資産の額	—	438	325	1,302
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	0	0	0
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	514	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限り。）に関連するものの額	—	—	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限り。）に関連するものの額	—	—	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	—	—	588	—
<b>自己資本</b>				
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	127,920		133,692	
<b>リスク・アセット等 (3)</b>				
信用リスク・アセットの額の合計額	894,917		980,829	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△2,836		△1,722	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	1,098		1,050	
うち、繰延税金資産	—		—	
うち、退職給付に係る資産	438		1,302	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△7,518		△6,611	
うち、上記以外に該当するものの額	3,145		2,535	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	56,705		56,189	
信用リスク・アセット調整額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—		—	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	951,623		1,037,018	
<b>連結自己資本比率</b>				
連結自己資本比率((ハ)/(ニ))	13.44%		12.89%	



【自己資本の構成に関する開示事項】 単体

(単位：百万円)

項 目	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
		経過措置による 不算入額		経過措置による 不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目 (1)</b>				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	116,773		122,524	
うち、資本金及び資本剰余金の額	16,941		16,941	
うち、利益剰余金の額	103,288		109,047	
うち、自己株式の額 (△)	2,965		2,973	
うち、社外流出予定額 (△)	490		490	
うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,922		2,718	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,922		2,718	
うち、適格引当金コア資本算入額	—		—	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,209		1,026	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	119,904		126,270	
<b>コア資本に係る調整項目 (2)</b>				
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	—	1,050	255	1,022
うち、のれんに係るものの額	—	—	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	1,050	255	1,022
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額	—	—	—	—
適格引当金不足額	—	—	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—	—	—
前払年金費用の額	—	—	115	463
自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	0	0	0
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	584	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	—	—	371	—
<b>自己資本</b>				
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	119,904		125,898	
<b>リスク・アセット等 (3)</b>				
信用リスク・アセットの額の合計額	881,862		967,701	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△3,261		△2,589	
うち、無形固定資産 (のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	1,050		1,022	
うち、繰延税金資産	—		—	
うち、前払年金費用	—		463	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△7,518		△6,611	
うち、上記以外に該当するものの額	3,207		2,535	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	52,780		52,219	
信用リスク・アセット調整額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—		—	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	934,643		1,019,921	
<b>自己資本比率</b>				
自己資本比率((ハ)/(ニ))	12.82%		12.34%	

# 自己資本充実の状況

## 【定量的な開示項目】 連結

1. その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額  
上記の対象に該当する会社はございません。

## 2. 自己資本の充実度に関する事項

イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち次に掲げるポートフォリオごとの額

- (1) 標準的手法が適用されるポートフォリオ及び標準的手法が複数のポートフォリオに適用される場合における適切なポートフォリオの区分ごとの内訳
- (2) 証券化エクスポージャー

(単位：百万円)

項 目	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
資産（オン・バランス）項目		
1. 現金	—	—
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
4. 国際決済銀行等向け	—	—
5. 我が国の地方公共団体向け	—	—
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	15	8
7. 国際開発銀行向け	—	—
8. 地方公共団体金融機構向け	—	—
9. 我が国の政府関係機関向け	100	144
10. 地方三公社向け	—	3
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	577	391
12. 法人等向け	17,910	18,007
13. 中小企業等向け及び個人向け	7,981	9,529
14. 抵当権付住宅ローン	2,590	2,610
15. 不動産取得等事業向け	1,735	2,320
16. 三月以上延滞等	173	51
17. 取立未済手形	2	2
18. 信用保証協会等による保証付	258	256
19. 株式会社地域経済活性化支援機構による保証付	—	—
20. 出資等	960	1,041
（うち出資等のエクスポージャー）	960	1,041
（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—
21. 上記以外	1,877	2,352
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	601	1,141
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	322	228
（うち上記以外のエクスポージャー）	953	982
22. 証券化エクスポージャー（オリジネーターの場合）	—	—
（うち再証券化）	—	—
23. 証券化エクスポージャー（オリジネーター以外の場合）	45	46
（うち再証券化）	—	—
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	404	1,154
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	187	195
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△300	△264
オン・バランス合計	34,520	37,850

(単位：百万円)

項 目	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
オフ・バランス項目		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	—	—
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	22	34
3. 短期の貿易関連偶発債務	1	0
4. 特定の取引に係る偶発債務	118	131
(うち経過措置を適用する元本補てん信託契約)	—	—
5. NIF又はRUF	—	—
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	138	180
7. 内部格付手法におけるコミットメント	—	—
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	475	427
(うち借入金の保証)	474	425
(うち有価証券の保証)	—	—
(うち手形引受)	—	—
(うち経過措置を適用しない元本補てん信託契約)	—	—
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)	—	—
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除後)	—	—
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除前)	—	—
控除額 (△)	—	—
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	—	—
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	479	556
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	13	16
カレント・エクスポージャー方式	13	16
派生商品取引	13	16
(1) 外為関連取引	5	9
(2) 金利関連取引	8	7
(3) 金関連取引	—	—
(4) 株式関連取引	—	—
(5) 貴金属 (金を除く) 関連取引	—	—
(6) その他のコモディティ関連取引	—	—
(7) クレジット・デリバティブ取引 (カウンター・パーティー・リスク)	—	—
一括精算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△)	—	—
長期決済期間取引	—	—
標準方式	—	—
期待エクスポージャー方式	—	—
13. 未決済取引	—	—
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補充及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	—	—
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—
オフ・バランス合計	1,249	1,345
CVAリスク相当額 (簡便的リスク測定方式)	26	37
中央清算機関関連エクスポージャー	0	—
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 (基礎的手法)	2,268	2,247
総所要自己資本の額	38,064	41,480

(注) 所要自己資本の額は「信用リスク・アセットの額×4%」を計上しております。

# 自己資本充実の状況

## 3. 信用リスク（証券化エクスポージャーを除く。）に関する次に掲げる事項

イ. 信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高（地域別、業種別、残存期間別）

（単位：百万円）

	平成26年9月中間期末				
	信用リスクエクスポージャー中間期末残高			三月以上延滞エクスポージャー（注2）	
	貸出金等（注1）	債券	デリバティブ取引		
国内計	2,611,066	1,855,562	753,445	2,059	5,789
国外計	—	—	—	—	—
地域別合計	2,611,066	1,855,562	753,445	2,059	5,789
製造業	261,814	213,164	48,649	—	3,312
農業・林業	5,469	5,469	—	—	4
漁業	1,784	1,784	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	498	498	—	—	—
建設業	53,232	49,703	3,528	—	344
電気・ガス・熱供給・水道業	30,991	28,484	2,506	—	—
情報通信業	14,112	9,496	4,616	—	10
運輸業・郵便業	28,258	24,001	4,256	—	—
卸売業・小売業	174,375	167,457	6,917	0	538
金融業・保険業	440,764	378,040	61,029	1,695	18
不動産業・物品賃貸業	144,720	139,620	5,100	—	255
各種サービス業	206,447	133,686	72,760	—	171
国・地方公共団体	822,211	278,132	544,079	—	—
個人	372,069	372,069	—	—	826
その他	54,314	53,951	—	362	307
業種別合計	2,611,066	1,855,562	753,445	2,059	5,789
1年以下	467,339	381,041	85,610	687	
1年超3年以下	311,037	157,286	153,691	59	
3年超5年以下	390,981	167,017	223,877	86	
5年超7年以下	440,240	301,866	138,316	57	
7年超10年以下	295,904	187,868	108,013	22	
10年超	587,916	543,197	43,934	783	
期間の定めのないもの	117,646	117,283	0	362	
残存期間別合計	2,611,066	1,855,562	753,445	2,059	

（単位：百万円）

	平成27年9月中間期末				
	信用リスクエクスポージャー中間期末残高			三月以上延滞エクスポージャー（注2）	
	貸出金等（注1）	債券	デリバティブ取引		
国内計	2,677,905	1,970,088	705,454	2,361	2,714
国外計	—	—	—	—	—
地域別合計	2,677,905	1,970,088	705,454	2,361	2,714
製造業	251,879	210,661	41,212	5	293
農業・林業	6,930	6,930	—	—	6
漁業	1,169	1,169	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	477	477	—	—	—
建設業	57,589	53,693	3,896	—	296
電気・ガス・熱供給・水道業	35,251	32,744	2,506	—	—
情報通信業	13,712	9,068	4,644	—	9
運輸業・郵便業	28,176	23,920	4,256	—	—
卸売業・小売業	177,947	169,550	8,389	7	627
金融業・保険業	423,336	345,814	75,529	1,991	15
不動産業・物品賃貸業	168,360	160,773	7,587	—	245
各種サービス業	241,254	173,201	68,053	—	327
国・地方公共団体	803,869	314,491	489,377	—	—
個人	412,619	412,619	—	—	627
その他	55,330	54,973	—	357	266
業種別合計	2,677,905	1,970,088	705,454	2,361	2,714
1年以下	475,124	379,689	94,936	498	
1年超3年以下	312,142	155,291	156,343	507	
3年超5年以下	419,087	187,433	231,479	173	
5年超7年以下	374,971	292,181	82,779	10	
7年超10年以下	302,798	214,734	88,044	20	
10年超	648,317	595,652	51,870	793	
期間の定めのないもの	145,463	145,105	0	357	
残存期間別合計	2,677,905	1,970,088	705,454	2,361	

（注1）貸出金等は貸出金〔三月以上延滞エクスポージャーを除く〕とオフ・バランス取引〔デリバティブ取引を除く〕の合計であります。

（注2）「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーであります。

□. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中増減額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期				平成27年9月中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
一般貸倒引当金	2,543	2,166	2,543	2,166	2,277	2,826	2,277	2,826
個別貸倒引当金	5,502	5,141	5,502	5,141	4,056	4,200	4,056	4,200
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	8,045	7,308	8,045	7,308	6,334	7,026	6,334	7,026

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期				平成27年9月中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
国内計	5,502	5,141	5,502	5,141	4,056	4,200	4,056	4,200
国外計	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別合計	5,502	5,141	5,502	5,141	4,056	4,200	4,056	4,200
製造業	1,556	1,498	1,556	1,498	417	471	417	471
農業・林業	5	4	5	4	2	4	2	4
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	149	170	149	170	155	159	155	159
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	182	—	182	—	—	—	—	—
運輸業・郵便業	—	3	—	3	3	3	3	3
卸売業・小売業	756	775	756	775	911	889	911	889
金融業・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業・物品賃貸業	199	196	199	196	106	121	106	121
各種サービス業	1,566	1,532	1,566	1,532	1,626	1,876	1,626	1,876
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	1,086	959	1,086	959	832	673	832	673
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
業種別合計	5,502	5,141	5,502	5,141	4,056	4,200	4,056	4,200

ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
製造業	—	—
農業・林業	—	—
漁業	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
建設業	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	—	—
金融業・保険業	—	—
不動産業・物品賃貸業	—	—
各種サービス業	1	—
国・地方公共団体	—	—
個人	88	124
その他	—	—
業種別合計	89	124

(注) 貸出金償却額は、貸出金および貸出金利息の償却額から、既に繰入済の個別貸倒引当金の当該償却に関わる取崩額を控除した額を計上しております。

# 自己資本充実の状況

## 二. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果 を勘案した後の残高並びに1250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

(単位:百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	21,187	1,105,508	23,953	1,048,347
10%	—	83,453	—	83,771
20%	199,495	3,353	192,587	3,738
35%	—	185,047	—	186,467
50%	240,770	242	250,465	169
75%	—	266,166	—	316,906
100%	39,280	398,527	36,547	412,523
150%	—	2,626	—	3,726
250%	—	4,225	—	8,288
350%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
その他	—	12,200	—	50,879
合計	500,733	2,061,353	503,554	2,114,818

(注) 格付は適格格付機関が付与しているものに限定しております。「格付有り」は、外国の中央政府以外の公共部門、金融機関、法人等向けエクスポージャーのみ集計しております。日本政府・日本銀行・地方公共団体向けの円建エクスポージャー等、格付の有無によらず適用するリスク・ウェイト区分が定められているものについては、「格付無し」として計上しております。その他は、個別に算定したファンド等について記載しております。

## 4. 信用リスク削減手法に関する事項

### イ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて適格金融資産担保が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
現金及び自行預金	28,727	44,788
金	—	—
適格債券	5,000	—
適格株式	—	—
適格投資信託	—	—
適格金融資産合計	33,727	44,788

### ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて保証が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
適格保証	41,590	46,414
適格クレジット・デリバティブ	—	—
適格保証、クレジット・デリバティブ合計	41,590	46,414

## 5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

### イ. 与信相当額の算出に用いる方式

スワップ、オプション等の派生商品取引（および長期決済期間取引）の与信相当額はカレント・エクスポージャー方式にて算出しております。

### ロ. グロス再構築コスト（零を下回らないものに限る。）の合計額

(単位:百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
グロス再構築コストの合計額	305	450

### ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

(単位:百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
派生商品取引	1,695	1,800
外国為替関連取引及び金関連取引	666	879
金利関連取引	1,029	920
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	1,695	1,800

(注) 原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は上記記載から除いております。

ニ. ロに掲げる合計額及びブロスアドオンの合計額からハに掲げる額を差し引いた額  
該当ございません。

ホ. 担保の種類別の額  
該当ございません。

ヘ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額  
担保による信用リスク削減手法の効果は勘案しておりません。  
ハをご参照ください。

ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつプロテクションの購入又は提供の別に区分した額  
該当ございません。

チ. 信用リスク削減効果の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額  
該当ございません。

## 6. 証券化エクスポージャーに関する事項

イ. 連結グループがオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項  
該当ございません。

ロ. 連結グループが投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
住宅ローン	1,262	1,014
アパートローン	738	530
商業用不動産ローン	—	—
事業法人向け貸出債権	—	—
個人向け貸出債権	—	—
その他	3,090	3,463
合計	5,091	5,008

(注) 再証券化エクスポージャーは保有しておりません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	残高	所要自己資本額	残高	所要自己資本額
0%	—	—	—	—
20%	4,590	36	4,507	36
50%	501	10	501	10
100%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
350%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
合計	5,091	46	5,008	46

(注) 再証券化エクスポージャーは保有しておりません。

(3) 自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250パーセントのリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び原資産の種類別の内訳  
該当ございません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳  
該当ございません。

# 自己資本充実の状況

## 7. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

イ. 中間連結貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中間連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等又は株式等エクスポージャー	39,713		41,909	
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャー	1,537		1,525	
合計	41,250	41,250	43,434	43,434

(注) 投資信託および匿名組合出資を通じた保有分は含めておりません。

ロ. 出資又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
売却損益額	345	1,865
償却額	1	2

ハ. 中間連結貸借対照表で認識され、かつ中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
評価損益の額	17,067	17,834

二. 中間連結貸借対照表及び中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額  
該当ございません。

## 8. 銀行勘定における金利リスクに関して連結グループが内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
金利リスク	10,826	19,323

(注) 1. VaRにより計測しており、前提条件は信頼区間99%、保有期間は商品有価証券を10日、それ以外は90日、観測期間を1年としております。  
2. 連結ベースの金利リスクは計測していないため、単体と同額となります。



【定量的な開示項目】 単体

1. 自己資本の充実度に関する事項

イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち次に掲げるポートフォリオごとの額

- (1) 標準的手法が適用されるポートフォリオ及び標準的手法が複数のポートフォリオに適用される場合における適切なポートフォリオの区分ごとの内訳  
 (2) 証券化エクスポージャー

(単位：百万円)

項	目	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
資産（オン・バランス）項目			
1.	現金	—	—
2.	我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
3.	外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
4.	国際決済銀行等向け	—	—
5.	我が国の地方公共団体向け	—	—
6.	外国の中央政府等以外の公共部門向け	15	8
7.	国際開発銀行向け	—	—
8.	地方公共団体金融機構向け	—	—
9.	我が国の政府関係機関向け	100	144
10.	地方三公社向け	—	3
11.	金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	577	391
12.	法人等向け	17,864	17,938
13.	中小企業等向け及び個人向け	7,895	9,444
14.	抵当権付住宅ローン	2,591	2,611
15.	不動産取得等事業向け	1,736	2,320
16.	三月以上延滞等	170	48
17.	取立未済手形	2	2
18.	信用保証協会等による保証付	258	256
19.	株式会社地域経済活性化支援機構による保証付	—	—
20.	出資等	951	1,034
	（うち出資等のエクスポージャー）	951	1,034
	（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—
21.	上記以外	1,653	2,146
	（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	601	1,141
	（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	279	201
	（うち上記以外のエクスポージャー）	772	804
22.	証券化エクスポージャー（オリジネーターの場合）	—	—
	（うち再証券化）	—	—
23.	証券化エクスポージャー（オリジネーター以外の場合）	45	46
	（うち再証券化）	—	—
24.	複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	403	1,154
25.	経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	170	160
26.	他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△300	△264
	オン・バランス合計	34,136	37,445

# 自己資本充実の状況

(単位：百万円)

項 目	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
オフ・バランス項目		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	—	—
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	22	34
3. 短期の貿易関連偶発債務	1	0
4. 特定の取引に係る偶発債務	118	131
(うち経過措置を適用する元本補てん信託契約)	—	—
5. NIF又はRUF	—	—
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	138	180
7. 内部格付手法におけるコミットメント	—	—
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	338	307
(うち借入金の保証)	336	305
(うち有価証券の保証)	—	—
(うち手形引受)	—	—
(うち経過措置を適用しない元本補てん信託契約)	—	—
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)	—	—
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除後)	—	—
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除前)	—	—
控除額 (△)	—	—
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	—	—
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	479	556
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	13	16
カレント・エクスポージャー方式	13	16
派生商品取引	13	16
(1) 外為関連取引	5	9
(2) 金利関連取引	8	7
(3) 金関連取引	—	—
(4) 株式関連取引	—	—
(5) 貴金属 (金を除く) 関連取引	—	—
(6) その他のコモディティ関連取引	—	—
(7) クレジット・デリバティブ取引 (カウンター・パーティー・リスク)	—	—
一括精算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△)	—	—
長期決済期間取引	—	—
標準方式	—	—
期待エクスポージャー方式	—	—
13. 未決済取引	—	—
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補充及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	—	—
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—
オフ・バランス合計	1,111	1,225
CVAリスク相当額 (簡便的リスク測定方式)	26	37
中央清算機関関連エクスポージャー	0	—
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 (基礎的手法)	2,111	2,088
総所要自己資本の額	37,385	40,796

(注) 所要自己資本の額は「信用リスク・アセットの額×4%」を計上しております。

## 2. 信用リスク（証券化エクスポージャーを除く。）に関する次に掲げる事項

イ. 信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高（地域別、業種別、残存期間別）

（単位：百万円）

	平成26年9月中間期末				
	信用リスクエクスポージャー中間期末残高			三月以上延滞エクスポージャー（注2）	
	貸出金等（注1）	債券	デリバティブ取引		
国内計	2,596,788	1,841,284	753,445	2,059	4,925
国外計	—	—	—	—	—
地域別合計	2,596,788	1,841,284	753,445	2,059	4,925
製造業	254,381	205,731	48,649	—	3,236
農業・林業	5,432	5,432	—	—	4
漁業	1,784	1,784	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	482	482	—	—	—
建設業	52,415	48,887	3,528	—	311
電気・ガス・熱供給・水道業	30,801	28,294	2,506	—	—
情報通信業	14,033	9,416	4,616	—	10
運輸業・郵便業	27,579	23,322	4,256	—	—
卸売業・小売業	172,495	165,577	6,917	0	535
金融業・保険業	445,637	382,913	61,029	1,695	16
不動産業・物品賃貸業	149,377	144,276	5,100	—	255
各種サービス業	203,462	130,702	72,760	—	120
国・地方公共団体	822,100	278,021	544,079	—	—
個人	371,663	371,663	—	—	433
その他	45,139	44,776	—	362	—
業種別合計	2,596,788	1,841,284	753,445	2,059	4,925
1年以下	474,343	388,045	85,610	687	—
1年超3年以下	309,268	155,517	153,691	59	—
3年超5年以下	386,270	162,305	223,877	86	—
5年超7年以下	437,994	299,621	138,316	57	—
7年超10年以下	295,743	187,707	108,013	22	—
10年超	587,556	542,838	43,934	783	—
期間の定めのないもの	105,611	105,248	0	362	—
残存期間別合計	2,596,788	1,841,284	753,445	2,059	—

（単位：百万円）

	平成27年9月中間期末				
	信用リスクエクスポージャー中間期末残高			三月以上延滞エクスポージャー（注2）	
	貸出金等（注1）	債券	デリバティブ取引		
国内計	2,663,485	1,955,668	705,454	2,361	2,105
国外計	—	—	—	—	—
地域別合計	2,663,485	1,955,668	705,454	2,361	2,105
製造業	244,806	203,588	41,212	5	255
農業・林業	6,900	6,900	—	—	6
漁業	1,169	1,169	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	445	445	—	—	—
建設業	56,745	52,849	3,896	—	252
電気・ガス・熱供給・水道業	35,073	32,566	2,506	—	—
情報通信業	13,547	8,903	4,644	—	9
運輸業・郵便業	27,480	23,223	4,256	—	—
卸売業・小売業	175,823	167,426	8,389	7	625
金融業・保険業	427,901	350,379	75,529	1,991	15
不動産業・物品賃貸業	173,213	165,625	7,587	—	245
各種サービス業	238,094	170,041	68,053	—	284
国・地方公共団体	803,778	314,401	489,377	—	—
個人	412,396	412,396	—	—	412
その他	46,109	45,751	—	357	—
業種別合計	2,663,485	1,955,668	705,454	2,361	2,105
1年以下	481,881	386,446	94,936	498	—
1年超3年以下	309,630	152,779	156,343	507	—
3年超5年以下	414,993	183,339	231,479	173	—
5年超7年以下	372,643	289,853	82,779	10	—
7年超10年以下	302,602	214,537	88,044	20	—
10年超	648,152	595,488	51,870	793	—
期間の定めのないもの	133,581	133,223	0	357	—
残存期間別合計	2,663,485	1,955,668	705,454	2,361	—

（注1）貸出金等は貸出金「三月以上延滞エクスポージャーを除く」とオフ・バランス取引「デリバティブ取引を除く」の合計であります。

（注2）「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーであります。

# 自己資本充実の状況

## ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中増減額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期				平成27年9月中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
一般貸倒引当金	2,183	1,822	2,183	1,822	2,068	2,615	2,068	2,615
個別貸倒引当金	4,320	4,062	4,320	4,062	3,136	3,449	3,136	3,449
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	6,504	5,885	6,504	5,885	5,205	6,065	5,205	6,065

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期				平成27年9月中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	中間期末残高
国内計	4,320	4,062	4,320	4,062	3,136	3,449	3,136	3,449
国外計	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別合計	4,320	4,062	4,320	4,062	3,136	3,449	3,136	3,449
製造業	1,457	1,384	1,457	1,384	354	406	354	406
農業・林業	5	4	5	4	2	4	2	4
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	149	165	149	165	150	159	150	159
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	182	—	182	—	—	—	—	—
運輸業・郵便業	—	3	—	3	3	3	3	3
卸売業・小売業	751	770	751	770	906	885	906	885
金融業・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業・物品賃貸業	198	195	198	195	106	121	106	121
各種サービス業	1,516	1,487	1,516	1,487	1,571	1,829	1,571	1,829
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	59	51	59	51	40	39	40	39
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
業種別合計	4,320	4,062	4,320	4,062	3,136	3,449	3,136	3,449

## ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
製造業	—	—
農業・林業	—	—
漁業	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
建設業	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	—	—
金融業・保険業	—	—
不動産業・物品賃貸業	—	—
各種サービス業	1	—
国・地方公共団体	—	—
個人	0	—
その他	—	—
業種別合計	1	—

(注) 貸出金償却額は、貸出金および貸出金利息の償却額から、既に繰入済の個別貸倒引当金の当該償却に関わる取崩額を控除した額を計上しております。

二. 標準的手法が適用されるエクスポートジャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高並びに1250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポートジャーの額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	21,187	1,105,056	23,953	1,048,347
10%	—	83,453	—	83,771
20%	199,487	3,353	192,580	3,738
35%	—	185,105	—	186,527
50%	240,768	146	250,464	108
75%	—	262,984	—	313,783
100%	39,096	389,133	36,385	402,705
150%	—	2,635	—	3,659
250%	—	3,791	—	8,011
350%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
その他	—	12,672	—	50,662
合 計	500,539	2,048,333	503,384	2,101,316

(注) 格付は適格格付機関が付与しているものに限定しております。「格付有り」は、外国の中央政府以外の公共部門、金融機関、法人等向けエクスポートジャーのみ集計しております。日本政府・日本銀行・地方公共団体向けの円建エクスポートジャー等、格付の有無によらず適用するリスク・ウェイト区分が定められているものについては、「格付無し」として計上しております。その他は、個別に算定したファンド等について記載しております。

### 3. 信用リスク削減手法に関する事項

イ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて適格金融資産担保が適用されたエクスポートジャーの額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
現金及び自行預金	28,727	44,788
金	—	—
適格債券	5,000	—
適格株式	—	—
適格投資信託	—	—
適格金融資産合計	33,727	44,788

ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて保証が適用されたエクスポートジャーの額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
適格保証	41,590	46,414
適格クレジット・デリバティブ	—	—
適格保証、クレジット・デリバティブ合計	41,590	46,414

### 4. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

イ. 与信相当額の算出に用いる方式

スワップ、オプション等の派生商品取引（および長期決済期間取引）の与信相当額はカレント・エクスポートジャー方式にて算出しております。

ロ. グロス再構築コスト（零を下回らないものに限る。）の合計額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
グロス再構築コストの合計額	305	450

ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
派生商品取引	1,695	1,800
外国為替関連取引及び金関連取引	666	879
金利関連取引	1,029	920
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	1,695	1,800

(注) 原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は上記記載から除いております。

# 自己資本充実の状況

ニ. ロに掲げる合計額及びグロスアドオンの合計額からハに掲げる額を差し引いた額  
該当ございません。

ホ. 担保の種類別の額  
該当ございません。

ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額  
担保による信用リスク削減手法の効果は勘案しておりません。  
ハをご参照ください。

ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつプロテクションの購入又は提供の別に区分した額  
該当ございません。

チ. 信用リスク削減効果の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額  
該当ございません。

## 5. 証券化エクスポージャーに関する事項

イ. 銀行がオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項  
該当ございません。

ロ. 銀行が投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
住宅ローン	1,262	1,014
アパートローン	738	530
商業用不動産ローン	—	—
事業法人向け貸出債権	—	—
個人向け貸出債権	—	—
その他	3,090	3,463
合計	5,091	5,008

(注) 再証券化エクスポージャーは保有しておりません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	残高	所要自己資本額	残高	所要自己資本額
0%	—	—	—	—
20%	4,590	36	4,507	36
50%	501	10	501	10
100%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
350%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
合計	5,091	46	5,008	46

(注) 再証券化エクスポージャーは保有しておりません。

(3) 自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250パーセントのリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び原資産の種類別の内訳  
該当ございません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳  
該当ございません。

## 6. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

### イ. 中間貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中間貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末		平成27年9月中間期末	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等又は株式等エクスポージャー	39,665		41,859	
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャー	1,504		1,492	
合計	41,170	41,170	43,352	43,352

(注) 投資信託および匿名組合出資を通じた保有分は含めておりません。

### ロ. 出資又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
売却損益額	345	1,865
償却額	1	2

### ハ. 中間貸借対照表で認識され、かつ中間損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期
評価損益の額	17,052	17,818

### 二. 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ございません。

## 7. 銀行勘定における金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期末	平成27年9月中間期末
金利リスク	10,826	19,323

(注) VaRにより計測しており、前提条件は信頼区間99%、保有期間は商品有価証券を10日、それ以外は90日、観測期間を1年としております。



## 銀行法施行規則に基づく開示項目

## 《単体ベース》

## [当行の概況]

大株主 ..... 37

## [主要業務に関する事項]

事業の概況 ..... 8

最近3中間期および2事業年度の主要業務の指標... 9

## [最近2中間期の業務の指標]

## ＜主要業務＞

業務粗利益・業務粗利益率 ..... 23

資金運用収支・役務取引等収支・その他業務収支... 23・24

資金運用勘定・調達勘定の平均残高等 ... 23・36

受取利息・支払利息の増減 ..... 23

総資産経常利益率および純資産経常利益率 ... 36

総資産中間純利益率および純資産中間純利益率... 36

## ＜預金＞

預金科目別平均残高 ..... 25

定期預金残存期間別残高 ..... 25

## ＜貸出金＞

貸出金科目別平均残高 ..... 26

貸出金残存期間別残高 ..... 26

貸出金・支払承諾見返の担保種類別残高 ..... 26

貸出金用途別残高 ..... 27

貸出金業種別残高等 ..... 27

中小企業向貸出金残高等 ..... 27

特定海外債権残高 ..... 35

預貸率 ..... 36

## ＜有価証券＞

商品有価証券の種類別平均残高 ..... 29

有価証券の種類別残存期間別残高 ..... 29

有価証券の種類別平均残高 ..... 29

預証率 ..... 36

## [業務運営]

中小企業の経営の改善および地域の活性化のための取り組みの状況... 6～7

## [最近2中間期の財産の状況]

中間貸借対照表 ..... 19

中間損益計算書 ..... 19

中間株主資本等変動計算書 ..... 20

破綻先債権額 ..... 28

延滞債権額 ..... 28

3カ月以上延滞債権額 ..... 28

貸出条件緩和債権額 ..... 28

自己資本充実の状況等..... 38～53

有価証券の時価情報 ..... 30～31

金銭の信託の時価情報 ..... 31

デリバティブ取引の時価情報 ..... 32～35

貸倒引当金の期末残高・期中増減額 ..... 28

貸出金償却額 ..... 27

金融商品取引法に基づく監査証明 ..... 19

## 《連結ベース》

## [銀行・子会社の概況]

主要な事業の内容・組織構成 ..... 10

子会社等に関する情報 ..... 10

## [銀行・子会社の主要な業務に関する事項]

事業の概況 ..... 8

最近3中間連結会計期間および2連結会計年度の主要業務の指標... 9

## [最近2中間連結会計期間の財産の状況]

中間連結貸借対照表 ..... 11

中間連結損益計算書 ..... 11

中間連結株主資本等変動計算書 ..... 12

連結破綻先債権額 ..... 17

連結延滞債権額 ..... 17

連結3カ月以上延滞債権額 ..... 17

連結貸出条件緩和債権額 ..... 17

連結自己資本充実の状況等..... 38～53

連結決算セグメント情報 ..... 18

金融商品取引法に基づく監査証明 ..... 11

## 金融機能再生法施行規則に基づく開示項目

資産の査定状況 ..... 28

## [山形銀行中間期ディスクロージャー誌 2015]

平成28年1月発行

発行 株式会社 山形銀行 総合企画部

〒990-8642 山形市七日町3丁目1番2号

電話 023 (623) 1221

URL <http://www.yamagatabank.co.jp>

---

私のメインバンク。

---

